

PowerQuest
V2i ProtectorTM 2.0
ブイツーアイ・プロテクター *Desktop Edition*

ユーザー ガイド

PowerQuest® V2i Protector™ 2.0 Desktop Edition
ユーザーガイド

第1版—2003年7月18日

© 2002 - 2003 PowerQuest Corporation

All rights reserved. This product and/or its use may be covered by one or more of the following patents: 5,675,769; 5,706,472; 5,930,831; 6,088,778; 6,108,697; 6,108,759; 6,173,291; 6,178,487; 6,178,503; 6,185,575; 6,185,666; 6,253,300; 6,330,653; and 6,377,958.

Additional patents may be pending. Please refer to www.powerquest.com/legal_notices for additional information about PowerQuest's patents.

本ソフトウェアおよびマニュアルの使用または使用結果に対するすべての責任は、お客様にあります。本マニュアルは、ソフトウェアライセンス契約書に記載されている場合を除き、いかなる目的でも、電子的または機械的な方法で複製することはできません。

本ソフトウェアおよびマニュアルは著作権法で保護されています。ソフトウェアの所有権を含め、その他すべての権利はPowerQuest Corporationにあります。PowerQuest、V2i Protector、Drive Image、PartitionMagic、およびPowerQuestのロゴは、米国およびその他の国におけるPowerQuest Corporationの登録商標です。DOS、Microsoft、Windows、およびWindows NTはMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。NetWareはNovellの登録商標です。その他すべてのブランドおよび製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

DriveImage は UPX 圧縮技術を使用しています。Copyright 1996-2003, Markus Franz Xaver Johannes Oberhumer and Laszlo Molnar.

株式会社ネットジャパン

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-18-3

sales@netjapan.co.jp

<http://www.netjapan.co.jp>

PowerQuest® V2i Protector エンドユーザーライセンス契約書

重要：PowerQuest社のソフトウェアを使用する前に以下をよくお読みください。

PowerQuestとのボリュームライセンス契約に基づいてソフトウェアを入手した場合、その契約の条項が本ライセンス契約の条項に優先します。本ライセンス契約は、お客様（「エンドユーザー」）とPowerQuest Corporation（「PowerQuest」）との間の契約書です。このソフトウェアを使用することにより、エンドユーザーは以下の条項を受け入れたこととなります。本ライセンス契約において、「本ソフトウェア」という用語は、本ライセンス契約が同封されているCDまたはディスク媒体上に含まれているソフトウェアを意味します。エンドユーザーがここに記載する条項に合意しない場合には、当該CDないしディスク媒体が含まれているソフトウェアパッケージ、ならびに、本製品のその他のコンポーネントを破棄するか、または、開封せずにそのまま購入場所まで返却しなければなりません。

1. 限定的な使用または一時的な使用：

認証されているか否かに関わらず、本ソフトウェアを評価する場合、以下規定が本契約の条項よりも優先します。お客様は、本ライセンス契約に定める本ソフトウェアを、設定されたタイムアウト期間使用することができます。この期間、お客様にアップデートやテクニカルサポートを受ける権利はありません。

2. 所有権：

本ソフトウェアおよび付属書類は、PowerQuestまたはそのライセンサーの所有物であり、米国および日本の著作権法、商標法、特許法およびトレードシークレットに関する法律、ならびに国際条約の諸規定によって保護されています。本ソフトウェアおよびその一切のコピー、修正、翻訳および組み込まれた部分の独占的な所有権は、つねにPowerQuestおよびそのライセンサーに帰属します。

3. POWERQUEST RECOVERY ENVIRONMENT（修復環境 PQRE）：

製品CDに含まれているPQREには、24時間ごとのタイムアウト機能が設定されています。このタイムアウト機能は、再起動するたびにリセットされます。製品CDをCD起動環境に入れ24時間経過するとPQREは自動的に再起動します。

4. ライセンスの許諾：

PowerQuestはここに、エンドユーザーに対して本ソフトウェアおよび付属書類のライセンスを許諾します。これによりエンドユーザーは本ライセンス契約の条項に基づいて本ソフトウェアの使用が許諾されます。使用許諾された各ソフトウェアは、エンドユーザーによって所有またはリースされている1台のコンピュータ上でのみ使用できます。本ソフトウェアを一時的にメモリにロードしたり、永続的な記憶領域にインストールすると、本ソフトウェアをコンピュータ上で使用したものとみなされます。本ソフトウェアをネットワーク上で利用する場合も、使用許諾されたソフトウェアに対するアクセスは特定の1台のコンピュータからしか行うことはできません。本ソフトウェアが特定の1台のコンピュータから既にアクセスされている場合、追加のライセンスを購入せずに、他のコンピュータ上で本ソフトウェアを使用することはできません。PowerQuestからの書面による許可を事前に得ることなしに本ライセンスまたはソフトウェアを譲渡または移転することはできません。また、無許可で行われた譲渡は無効とみなされます。本ライセンスは、エンドユーザーの一身専属的なもの（個人あるいは法人）です。個人業務、内部業務のためにのみ使用できるものであり、クライアントまたは顧客の便宜のためにこれを使用することはできません。

5. バックアップコピー：

エンドユーザーはバックアップを目的とする場合のみ、使用許諾されたソフトウェアのコピーを1つ作成できます。

6. アップデートおよびサポート：

エンドユーザーは、バッチやバグの修正などのソフトウェアのアップデートを受け取ることができます。通常、アップデートはPowerQuestがテクニカルサポートを提供している（株）ネットジャパンのWebサイト（www.netjapan.co.jp）で入手可能です。サポートの方針や料金については、（株）ネットジャパンにお問い合わせください。

7. 期間：

本ライセンス契約は、本ソフトウェアの購入日から有効となり、解約されるまで有効です。エンドユーザーは、全ソフトウェアと付属書類を破棄することにより、いつでも本ライセンス契約を解除できます。

8. 無許可の使用：

本ライセンス契約で明示的に許可されている場合を除き、PowerQuestからの書面による明示的な許可を事前に得ることなく、本ソフトウェアまたはその付属書類を電子的またはその他の手段で使用、コピー、修正、改変または転送することはできません。また、本ソフトウェアを翻訳、リバースプログラミング、ディスアセンブリ、逆コンパイル、およびリバースエンジニアリングすることもできません。

9. 輸出規制：

コンピュータソフトウェアの輸出および最終エンドユーザーに関してのアメリカ合衆国の条例による規制の下で、本ソフトウェアの使用が許諾されています。エンドユーザーは、1979年の輸出管理法に限らず、随時改訂され公表されているアメリカ合衆国の関連条例および法規を、十分に遵守することに同意するものとします。

10. 米国政府による使用の制限：

エンドユーザーが米国政府の省庁での使用を目的として本ソフトウェアを取得する場合は、以下の条項が適用されます：本ソフトウェアは民間の費用のみで開発されたものであり、本ソフトウェアとその付属書類は制限付き権利を付して提供されます。米国政府による本ソフトウェアの使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013 のテクニカルデータおよびコンピュータソフトウェアの権利に関する条項(c)(1)(ii)、または 48 CFR 52.227-19 の商用コンピュータソフトウェアの制限付き権利に関する条項(c)(1)および(2)のいずれかの既定により制限されます。契約業者/製造元は PowerQuest Corporation です。

11. 限定的保証：

(a)PowerQuest は、エンドユーザーに対して以下を保証します：(i)本ソフトウェア（第三者ソフトウェアを含まない）がほぼ付属書類通りに作動すること、および、(ii)本ソフトウェアがディスク媒体上に適切に記録されていること。この限定的保証は、購入の日から 90 日間有効です。(b)この限定的保証は、本ライセンス契約の条項や本ソフトウェアおよび付属書類上の指示に従わずに改変、損傷、乱用、誤用ないし使用された本ソフトウェアには適用されません。(c)この限定的保証に基づく PowerQuest の責任およびエンドユーザーに対する唯一の救済は、本ソフトウェアの修復または交換、あるいは、本ソフトウェアの購入価格の返済に限定されます。PowerQuest は、本ソフトウェアが、エンドユーザーの保管する領収書のコピーを添えて、保証期間内に PowerQuest またはその代理店に返還されない限り、この限定的保証に基づく責任を負いません。本ソフトウェアの交換されたものについては、当初の保証期間の残存期間または 30 日間のうち、いずれか長い期間につき保証されるものとしします。(d)この保証は、明示または暗黙を問わず、商品性、特定の用途への適合性、および第三者の権利侵害についての保証、または商慣行や取引過程で発生する保証を含むがそれに限定されない、本ライセンス契約中に明記されていないその他一切の保証に代わるとともに、それらを排除するものです。(e)この保証はエンドユーザーに特定の法的権利を与えます。エンドユーザーは、居住地域によって異なるほかの権利を与えられる場合もあります。

12. 責任の制限：

いかなる場合においても、本ソフトウェアに関する PowerQuest の責任は、本ソフトウェアに対してエンドユーザーが実際に支払ったライセンス料の範囲に限定されます。限定的保証で既定される条件下での購入価格の返済を除き、PowerQuest またはその供給者は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用または使用不能に関連して生じた直接的損害、間接的損害、特別損害、付随的損害、結果的損害、および業務上の利益の喪失、業務の中断による損失、業務情報の喪失、またはその他の金銭的損失を含むがそれに限定されない損害について、たとえかかる損害の発生の可能性を知らされていた場合であっても、(契約よると、不法行為によると、保証によると、またはその他一切の法律上の根拠によらず)一切の責任を負いません。居住する地域によっては、付随的損害または結果的損害に対する責任の除外または制限が認められず、上記の制限が適用されない場合があります。

13. 完全な合意：

本ライセンス契約は、本ライセンス契約の主題に関して、エンドユーザーと PowerQuest との間の完全な合意を構成します。本ライセンス契約はユタ州法を準拠法とします。本ライセンス契約に関連して発生する訴訟はすべて、ユタ州に所在する州裁判所または連邦裁判所においてのみ訴追されます。本契約の一部が無効とされた場合でも、本契約の残りの部分は有効で拘束力を持ち、強制可能です。

エンドユーザーが本契約について質問がある場合、または、エンドユーザーがなんらかの理由により PowerQuest、または、PowerQuest の日本総代理店である（株）ネットジャパンに連絡をとる場合には、下記までご連絡ください。

PowerQuest Corporation/1359 North Research Way, Building K/Orem UT 84097 U.S.A.

株式会社ネットジャパン / 〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-18-3 NBS 岩本町ビルディング

Copyright© 1994-2003 PowerQuest Corporation. All rights reserved.

本ソフトウェアは米国特許法をはじめ、米国ならびにその他の地域で懸案中の特許法によって保護される可能性があります。

PowerQuest は PowerQuest Corporation の登録商標です。

目次

はじめに	1
V2i Protectorを使用する利点	1
V2i Protectorの動作概要	1
機能	2
第 1 章: V2i Protector Desktop Edition のインストール	
V2i Protector システムの使用に必要なシステム要件	4
V2i Protector Desktop Edition のインストール	5
30 日間の評価バージョン	6
PQRE のテスト	6
V2i Protector のライセンス	7
V2i Protector のライセンス認証	7
第 2 章: はじめに	
V2i Protector Desktop Edition の起動	10
基本表示および詳細表示	10
PowerQuest Backup Image Browser	10
PowerQuest Backup Image Browser を開く	11
Backup Image Browser でバックアップイメージを開くまたは閉じる	12
実行できる作業	13
第 3 章: バックアップイメージの作成	
バックアップイメージの作成	16
バックアップイメージの保存先を決定する方法	20
バックアップイメージのスケジューリング	21
バックアップイメージの作成についてのヒント	25
スケジュール設定されたバックアップジョブの迅速な実行	25
バックアップスケジュールの編集	26
バックアップスケジュールの削除	26
ドライブのバックアップ詳細の表示	26
設定オプション	27
コンピュータをバックアップする権限の設定	28
バックアップイメージファイルの完全性チェック (Backup Image Browser)	29
バックアップイメージのエクスポート (Backup Image Browser)	30

第 4 章: ファイルやフォルダの復元	
ファイルやフォルダの復元方法	34
バックアップイメージからのファイルの復元	35
バックアップイメージ内のファイルの編集	35
V2i ボリュームのマウント	36
V2i ドライブのマウント解除	37
PQRE でのバックアップイメージからのファイルの復元	38
バックアップイメージのプロパティの表示 (Backup Image Browser)	40
バックアップイメージのボリュームのプロパティの表示 (Backup Image Browser)	41
バックアップイメージ内のファイルの表示 (Backup Image Browser)	42
第 5 章: バックアップイメージの復元	
コンピュータの復元方法	44
バックアップイメージの復元	45
PQRE での単一ドライブの復元	48
PQRE での複数のドライブの復元	51
PQRE でのシステムインデックスファイルを使用した複数のドライブの復元	53
PQRE でのサポートユーティリティの使用	54
PQRE からの復元時のヒントとトラブルシューティング	56
PQRE の使用方法	56
PQRE での USB デバイスの実行	56
PQRE での復元中のネットワークの接続	56
PQRE の実行時に静的 IP アドレスを取得する方法	57
DHCP が存在しないときの遅延適用の使用	58
第 6 章: ドライブのコピー	
概要	60
ドライブのコピー機能の使用準備	60
ハードディスクから別のハードディスクへのコピー	63
コピー終了後のコンピュータの再起動準備	63

付録 A: トラブルシューティング	
インストールのトラブルシューティング	66
バックアップイメージのスケジューリングの作成	66
V2i Protector サービスのステータスの確認	67
PQRE のトラブルシューティング	67
エラーメッセージ	69
Backup Image Browser	69
一般的なエラーメッセージ	69
Windows 上のボリュームについてのヘルプ	71
V2i Protector Agent と Windows のサービスツール	71
Agent (V2i Protector サービス) のデフォルト設定	73
サービスの使用に関するヒント	74
[サービス]での Agent のプロパティの設定	75
PQRE でサポートされているストレージデバイス	83
PQRE でサポートされている NIC ドライバ	84
付録 B: テクニカルサポート	
テクニカルサポートへ連絡する前に	98
テクニカルサポートフォーム	98
テクニカルサポートを受けるための条件	98
テクニカルサポートの連絡先	98
旧バージョンのサポート期間について	99
補足	99
用語集	101
索引	105

はじめに

PowerQuest® V2i Protector™ 2.0 Desktop Edition は、Windows 2000 Professional、または Windows XP を実行するコンピュータ用のバックアップソフトです。ウィザードを使用して、Windows を起動したままでバックアップを実行することができます。

大容量のハードディスクに載せかえる場合には、ハードディスクドライブのすべての内容を新しいハードディスクドライブに簡単にコピーすることもできます。

V2i Protector を使用する利点

コンピュータに問題が発生した場合、バックアップイメージを復元してバックアップ作成時の状態にコンピュータを戻すことができます。一部のファイルのみをバックアップするのではなく、オペレーティングシステム、アプリケーション、およびデータファイルのすべてをドライブからバックアップできます。復元に関しては、ドライブ単位の復元の他に、必要に応じて個々のファイルやフォルダだけを復元することもできます。

V2i Protector の動作概要

バックアップは、ドライブ単位でファイル名を指定してバックアップを行います（ファイルやフォルダ単位でのバックアップはできません）。バックアップを作成するドライブを選択すれば、そのドライブの内容がバックアップイメージと呼ばれるファイルにコピーされます。

作成したバックアップイメージは、ハードディスク、USB または FireWire ドライブ、ネットワークドライブ、または CD-R などに保存することができます。

コンピュータに問題が発生した場合、または何らかの理由でファイルやフォルダの復元が必要な場合は、既存のバックアップを使用して、ファイル、フォルダ、またはドライブ全体を復元することができます。

機能

V2i Protector は、次の機能を備えています。

- ネットワークサポート：ネットワーク上に共有されたドライブにアクセスしてバックアップを作成および復元できます。V2i Protector では、ピアツーピアネットワーク上の共有ネットワークドライブにバックアップイメージを保存することもできます。
- 増分バックアップ：V2i Protector では、増分バックアップのベースラインバックアップイメージを作成することができます。ベースラインバックアップイメージ (*.v2i) とは、ドライブ上のすべての内容を含む完全なバックアップイメージです。増分バックアップイメージ (*.iV2i) はベースラインバックアップイメージに対する“追加”イメージで、ベースラインバックアップの作成後に変更されたドライブ上のすべての内容をバックアップ対象とします。増分バックアップではデータ量が少なくなるので、バックアップの作成が高速になると同時に、使用するディスク容量も少なくて済みます。このため、完全バックアップのみを作成する場合よりも少ない時間とディスク容量で、コンピュータをより頻繁にバックアップすることができます。
- ホットバックアップ：Windows を終了しないで「動作中に」バックアップを作成することができます。
- USB ドライブ、FireWire ドライブ、および各種DVD/CD メディアへのバックアップの保存：ローカルドライブ、ネットワークドライブ、リムーバブルメディア (CD-R、CD-R/W ドライブなど) 以外にも、USB ドライブ、FireWire ドライブ、DVD-R/RW や DVD+R のメディアにバックアップを保存することができます。
- V2i Protector Server Edition との統合：V2i Protector Server Edition を使用している場合、ネットワーク管理者は、ワークステーションを V2i Protector 管理コンソールに追加することにより、エンタープライズ全体のワークステーションに対して、中央からバックアップおよび復元タスクを実行することができます。

第 1 章

V2i Protector Desktop Edition のインストール

- [V2i Protector システムの使用に必要なシステム要件](#)
- [V2i Protector Desktop Edition のインストール](#)
- [PQRE のテスト](#)
- [V2i Protector のライセンス](#)
- [V2i Protector のライセンス認証](#)

V2i Protector システムの使用に必要なシステム要件

V2i Protector は、Windows 2000 Professional および Windows XP をサポートしています。

プロセッサ	Pentium 150 以上
RAM	256 MB 以上 (ソフトウェアが利用可能なメインメモリ)
ハードディスクの空き容量	プログラムファイル用に 190MB (Microsoft .NET Framework をインストールする場合には、別途 160 MB 程の空き領域が必要です。この値は、インストール作業用の一時容量を含んでいます。)
CD または DVD ドライブ	BIOS で起動可能な任意の速度のもの 67 ページの「CD から起動できません。」 を参照してください。
ソフトウェア	V2i Protector をインストールして使用する前に、Microsoft .NET Framework をインストールする必要があります。 Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合は、V2i Protector のインストール時に、Microsoft .NET Framework をインストールするように求められます。

サポートされるファイルシステムとリムーバブルメディア

ファイルシステム	V2i Protector は、FAT16、FAT16X、FAT32、FAT32X、NTFS2000、NTFS5.1、Linux Ext2、Linux Ext3、ReiserFS、および Linux スワップパーティション
リムーバブルメディア	V2i Protector は packet write に対応した CD-R/RW、DVD-R/RW、DVD+R、MO、zip などのリムーバブルメディアへバックアップイメージを保存することができます。 また、大半の USB デバイス、IEEE1394 (FireWire) デバイス、光磁気デバイスにも、バックアップイメージファイルを保存することができます。 重要! V2i Protector は、DVD+RW、DVD-RAM メディアおよびテープメディアをサポートしていません。

V2i Protector Desktop Edition のインストール

1. V2i ProtectorのCDを挿入します。CDブラウザの画面が自動的に表示されない場合は、CDの内容を参照してAutorun.exeをダブルクリックします。

V2i Protectorを使用するには、Microsoft .NET Frameworkがインストールされている必要があります。コンピュータ上に.NET Frameworkが見つからない場合は、V2i Protectorのインストール中に.NET Frameworkをインストールするように求められます。通常は、そのまま.NET Frameworkのインストールをインストールすれば問題はありませんが、現在ログインしているユーザー名に2バイト文字が含まれている場合（例：NJ太郎 など）は.NET Frameworkのインストールに失敗することがあります。その場合は、製品CD内の「1041DOTNETREDIST.EXE」を実行し、.NET Frameworkのインストールを別途行ってください。その後、「1041DOTNETREDISTSP2.EXE」を実行することで.NET FrameworkのSP2をインストールすることができます。

なお、本製品をインストールする前に、予めWindows UPDATE、またはMicrosoft社のWebサイトから入手できる最新版のMicrosoft .NET Frameworkをインストールしておくことをお奨めします。

2. CDブラウザの画面で、[インストール]をクリックします。
3. ようこそその画面で、[次へ]をクリックします。
4. ライセンス契約に目を通します。[使用許諾契約の条項に同意します]をクリックし、[次へ]をクリックします。
5. (必要に応じて) V2i Protector Desktopのインストール先を変更する場合には、[変更]をクリックして、インストール先を指定します。
6. [次へ]をクリックします。
7. 「ネットワークに接続していますか?」というメッセージが表示されます。

[はい]または[いいえ]をクリックして、V2i Protectorをネットワークで使用するかどうかを指定します。

重要： ここで書かれているネットワークとは、ドメイン環境のことであり、一般家庭では利用していません。一般家庭で、インターネットに接続したり、ワークグループを利用してLANを組んでいる場合には、「いいえ」を選択してください。

なお、[はい]を選択した場合には、[エージェントの設定]画面が表示されるのでユーザー名、ドメイン名またはコンピュータ名、およびパスワードを入力します。

ユーザー名には、V2i Protectorをインストールするコンピュータの管理者を指定してください。指定するユーザーはバックアップの保存と復元を行うためのネットワークに対する読み取り/書き込み権限が必要です。

8. 要約情報を確認し、[インストール]をクリックします。

.NET Framework がコンピュータにインストールされていない場合は、ここで .NET Framework のセットアップが開始されます。

[はい]をクリックして、Microsoft .NET Framework パッケージのインストールを続けます。

.NET Framework のセットアップで「インストールが完了しました」という画面が表示されたら、[OK]をクリックします。

9. V2i Protector のインストール状況が表示されます。

10. インストールが完了したら、[完了]をクリックします。

V2i Protector のすべての機能を使用可能にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

30 日間の評価バージョン

V2i Protector の 30 日間評価バージョンでは、すべてのアプリケーションをインストールし、システムおよびデータボリュームのバックアップイメージを作成することができます。データボリュームおよびファイルやフォルダを復元することもできます。ただし、評価バージョンを使用してシステム全体を復元することはできません。

PowerQuest Support Knowledge Base（英語）や（株）ネットジャパンの Web サイト（www.netjapan.co.jp）で、最新のサポート情報を参照することができます。

V2i Protector 評価バージョンは、使用を開始した日から 30 日後に有効期間が終了します。ただし、有効期間が終了した後でも、ソフトウェアを再インストールすることなく、いつでも完全バージョンへアップグレードすることができます。詳細については、[7 ページの「V2i Protector のライセンス認証」](#)を参照してください。

PQRE のテスト

インストールプロセスの一環として、[PowerQuest Recovery Environment（PQRE）](#)をテストし、正常に起動することを確認してください。

PQRE とは、インストール用 CD から起動して復元を行うことです。

Windows 2000/XP がインストールされているコンピュータでは、ほとんどの場合には CD から起動ができますが、BIOS 設定を変更しないと CD から起動しない可能性もあるため、予めのインストール用 CD-ROM から起動して、必要なデバイスが認識できることを確認してください。

なお、インストール CD から起動を行うと、「Press any key to boot from CD..」と表示されるので、何かキーを押してください。

- CDからコンピュータを起動できる必要があります。[67 ページの「CDから起動できません。」](#)を参照してください。
- 復元用のバックアップが保存されているストレージにアクセスするためのドライバが必要です。[68 ページの「バックアップが保存されているローカルドライブにアクセスできません。」](#)を参照してください。
- ネットワーク上のファイルにアクセスする場合はNICドライバが必要です。[68 ページの「バックアップが保存されているネットワーク上のコンピュータにアクセスできません。」](#)を参照してください。

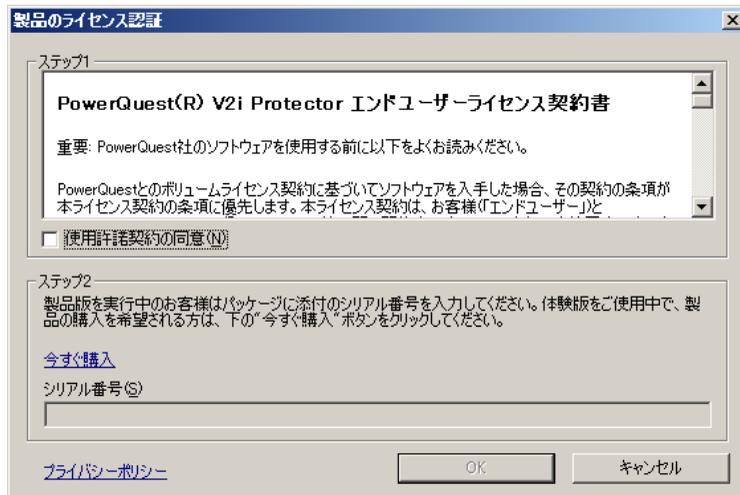
V2i Protector のライセンス

V2i Protector のライセンスは、バックアップ対象となるコンピュータの数が基準です。つまり、100 台のコンピュータを保護するには、100 台のコンピュータを基準にした価格になります。

V2i Protector のライセンス認証

V2i Protector の使用にはライセンス認証が必要です。ライセンス認証がない場合は、ソフトウェアの有効期間は 30 日間です。

1. V2i Protector コンソールで、[ヘルプ]をクリックし、[製品のライセンス認証]をクリックします。



2. ライセンス契約に目を通し、[使用許諾契約の同意]を選択して、ライセンス契約の条項に同意することを承認します。
3. ソフトウェアを購入していないためにV2i Protectorのシリアル番号がない場合は、[今すぐ購入]をクリックすると、ウェブブラウザが起動し(株)ネットジャパンのWebサイトに接続します。ここで購入の手続きを取ることができます。
4. 既に製品CDを購入している場合は、シリアルナンバーを入力してください。V2i Protectorのシリアル番号を入力します。
5. [OK]をクリックします。ここでライセンス認証が完了したら、ユーザー登録を行ってください。

第 2 章

はじめに

- [V2i Protector Desktop Edition の起動](#)
- [基本表示および詳細表示](#)
- [PowerQuest Backup Image Browser](#)
- [実行できる作業](#)

V2i Protector Desktop Edition の起動

1. Windowsの[スタート]をクリックし、[プログラム]、[PowerQuest V2i Protector]の順にポイントして、[V2i Protector Desktop Edition]をクリックします。

基本表示および詳細表示

V2i Protectorには基本表示と詳細表示という2種類の表示方法があり、デフォルトでは基本表示が選択されています。基本表示には、メニューバー、画面右側に一般タスクのアイコン、画面左側に表示切り替えおよびタスク実行のショートカットがあります。

基本表示からは、よく使う機能を迅速に実行することができます。

詳細表示を表示するには、基本表示で[表示]、[詳細表示]の順にクリックします。

詳細表示では、ドライブ情報、作成済みバックアップジョブ、各ドライブのバックアップ履歴、およびV2i Protector関連イベントメッセージ(動作の記録)の概要を迅速に表示することができます。

また、基本表示では使用できない一部の追加タスクを実行することができます。

- バックアップジョブのスケジュール：基本表示では、すぐにドライブのバックアップが開始されます。バックアップジョブでは、今後のバックアップをスケジュールし、定期的にバックアップをとることができます。
- 増分バックアップで利用するためのベースラインバックアップイメージの作成：バックアップを作成する場合、完全バックアップイメージの作成、または増分バックアップのあるベースラインバックアップイメージの作成を選択することができます。

PowerQuest Backup Image Browser

PowerQuest V2i Protectorに同梱されているBackup Image Browserを使用することで、バックアップイメージファイルの管理と保守を簡単に行うことができます。Backup Image Browserでは、バックアップイメージファイルの管理を1つの画面で行うことができます。たとえば、Backup Image Browserを使用して、バックアップイメージファイルの内容を表示したり、バックアップイメージから個別のファイルを復元したり、あるいは選択したドライブのマウントを行うことができます。

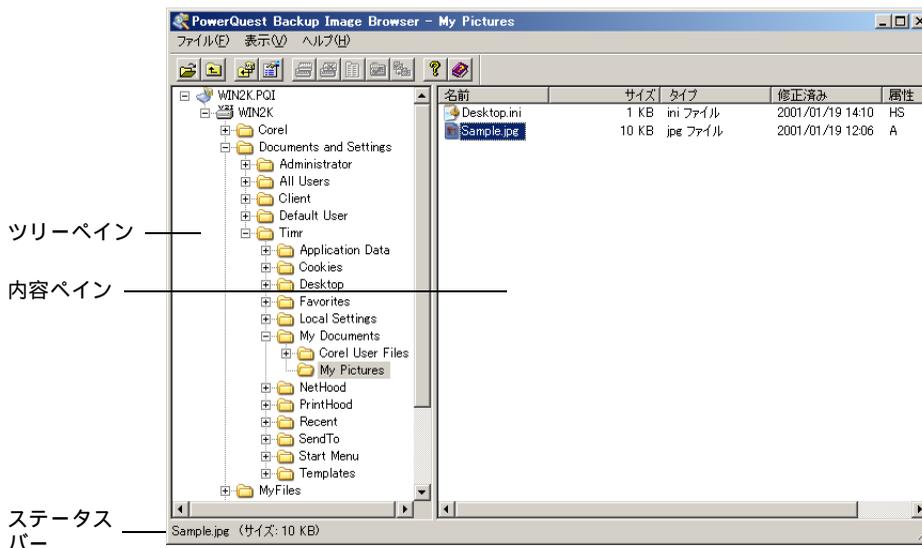
また、バックアップイメージの説明が表示されるので、個別のバックアップイメージファイルやボリュームを容易に識別することができます。バックアップイメージ内のフォルダやファイルを修正して、イメージの一部として保存することはできません。

PowerQuest Backup Image Browserを開く

1. Windowsの[スタート]をクリックし、[プログラム]、[PowerQuest V2i Protector]の順にポイントして、[Backup Image Browser]をクリックします。

Backup Image Browserを開くたびに[ファイルを開く]というダイアログが表示されます。開くバックアップイメージファイルを選択するか、[キャンセル]をクリックして、[ファイル]メニューで以前に開いたことのあるバックアップイメージファイルを選択します。

[詳細表示]を利用している場合には、[バックアップ履歴]の中に表示されているバックアップファイルを右クリックして、[ファイルとフォルダの復元]を左クリックするとBackup Image Browserを起動することができます。



ツリーペイン

Backup Image Browserで開いているすべてのバックアップイメージファイル(.V2i、.iV2i、.pqi)がツリー構造で階層的に表示されます。この機能を下記に示します。

- バックアップイメージ内でボリュームをマウントまたはマウント解除する。
- 選択したバックアップイメージファイルが有効かどうかを検証する。
- バックアップイメージ内のファイルやフォルダを参照する。
- 選択したバックアップイメージファイルのプロパティを表示する。
- バックアップイメージファイル内のフォルダを開く、または閉じる。

内容ペイン

選択したドライブ、フォルダ、バックアップイメージファイル、ボリュームの内容が表示されます。バックアップイメージファイル (.PQI、.V2i、.iV2i)、ボリューム、フォルダ、ファイルなど、選択したものに応じた下記の操作を、画面右側で直接実行することができます。

- バックアップイメージファイル内で選択したファイルやフォルダを復元する。
- バックアップイメージ内でボリュームをマウントまたはマウント解除する。
- 選択したファイルの内容を表示する。
- 選択したボリュームのプロパティを表示する。

ステータスバー

[Backup Image Browser] ウィンドウの一番下にあるステータスバーには、ツールバーボタンやプルダウンメニューの項目の説明が表示されます。

Backup Image Browser でバックアップイメージを開くまたは閉じる

1. Backup Image Browser で、[ファイル] をクリックして [開く] をクリックします。
2. 表示するバックアップイメージファイル (.PQI、.V2i、.iV2i) を探します。
3. バックアップイメージファイルをダブルクリックして開きます。
4. 最近開いたことのあるバックアップイメージファイルが [ファイル] メニューに保持されています。
5. バックアップイメージファイルを閉じるには、ツリービューでイメージ名を選択し、[ファイル] をクリックして [閉じる] をクリックします。

また、Windows エクスプローラでバックアップイメージファイルをダブルクリックすることで、バックアップイメージファイルを Backup Image Browser に表示させることもできます。

実行できる作業

下記は、V2i Protector で実行できる作業およびその作業開始手順のリストです。

実行できる作業	作業開始手順
ドライブを今すぐバックアップする。	基本表示の右側にある [ドライブのバックアップ] をクリックします。
ドライブを後でバックアップする。	詳細表示の左側にある [バックアップジョブの作成] をクリックします。
定期スケジュールにあるすべてのドライブをバックアップする。	詳細表示の左側にある [バックアップジョブの作成] をクリックします。
定期スケジュールにあるすべてのドライブをいったんバックアップし、バックアップの変更をキャプチャする。	詳細表示の左側にある [バックアップジョブの作成] をクリックします。
スケジュールしたバックアップを確認する。	詳細表示で [バックアップジョブ] タブをクリックします。
バックアップイメージからファイルまたはフォルダを復元する。	基本表示の右側にある [ファイルまたはフォルダの復元] をクリックします。
Windows 内のバックアップイメージを復元する。	基本表示の右側にある [ドライブの復元] をクリックします。
バックアップイメージから Windows を復元する。	V2i Protector Desktop Edition CD から起動して、復元します。
1つのドライブ上で実行されたバックアップの履歴を確認する。	詳細表示で [バックアップ履歴] タブをクリックします。
バックアップイメージのデフォルトの保存場所を設定する。	メニューバーで [ツール]、[オプション] の順にクリックします。
ハードディスクの内容を新しいハードディスクにコピーする。	基本表示の右側にある [ドライブの内容を別のドライブにコピー] をクリックします。
バックアップが設定通りに機能するかどうかをチェックする。	詳細表示で [イベント] タブをクリックします。
バックアップが計画通りに機能しない場合、電子メールを送信する。	メニューバーで [ツール] をクリックして [オプション] をクリックし、[通知] タブをクリックします。

第 3 章

バックアップイメージの作成

- [バックアップイメージの作成](#)
- [バックアップイメージのスケジューリング](#)
- [バックアップイメージの作成についてのヒント](#)
- [バックアップスケジュールの編集](#)
- [バックアップスケジュールの削除](#)
- [ドライブのバックアップ詳細の表示](#)
- [設定オプション](#)
- [コンピュータをバックアップする権限の設定](#)
- [バックアップイメージファイルの完全性チェック \(Backup Image Browser\)](#)
- [バックアップイメージのエクスポート \(Backup Image Browser\)](#)

バックアップイメージの作成

ここでは、[バックアップイメージ](#)を手動で作成する手順を説明します。新しい製品をインストールするときや、重要なファイルを変更したりする前など、直ちにバックアップを作成する必要があるときに使用します。また、初めてコンピュータのバックアップイメージを作成し、正しく作成されたかどうかを確認し、[バックアップジョブの作成]機能を使用して、その後のバックアップを自動化する場合にも使用します。

バックアップイメージの作成を、手動ではなくスケジュールによって自動的に実行する方法については、[21ページの「バックアップイメージのスケジューリング」](#)を参照してください。

1. 基本表示で、[ドライブのバックアップ]をクリックします。
または[詳細表示]で[ドライブ]タブをクリックし、[ツール]、[ドライブのバックアップ]の順にクリックします。
2. [次へ]をクリックします。
3. バックアップを実行するドライブを選択します。複数のドライブを選択することができます。
選択したドライブごとに別々のバックアップイメージが作成されます。
目的のドライブをクリックすると、ドライブの使用領域および空き領域がグラフィカルに表示されます。
4. [次へ]をクリックします。
5. バックアップイメージの保存先を選択します。
重要! 指定した保存先に必要な空き領域がない場合は、バックアップを行うのに十分な空き領域のあるドライブを指定します。そのまま作業を続行しても、バックアップイメージを保存できない可能性があります。十分な容量のある保存先を指定してください。

各オプションの長所と短所については、20ページの「バックアップイメージの保存先を決定する方法」を参照してください。

バックアップイメージ
の保存先

説明

ローカルファイル	バックアップが実行されているコンピュータにバックアップイメージを保存する場合は、[ローカルファイル]をクリックして、バックアップイメージを保存するドライブとフォルダ（例：E:\Data_Backups\）を指定します。
ネットワークファイル	バックアップイメージを共有ネットワーク フォルダに保存する場合は、[ネットワークファイル]をクリックしてバックアップイメージの保存先となるUNCパス（\\server\share）を指定するか、[参照]をクリックしてバックアップイメージの保存先となる共有ネットワークフォルダを指定します。 重要！ 共有ネットワーク フォルダには、インストール時に指定したユーザーアカウントとパスワードを使用してアクセスできる必要があります。
CD-RW/DVD-RW	ディスクメディアにバックアップイメージを保存するには、[CD-RW/DVD-RW]をクリックし、バックアップイメージの保存先のCD-RW ドライブまたはDVD-RW ドライブを指定します。 CD-RW または DVD-RW がない場合、このオプションは表示されません。

6. (必要に応じて)バックアップイメージのファイル名を変更するには、リストボックスで目的のバックアップイメージファイルの名前を選択して[名前の変更]をクリックし、新しい名前を入力します。
7. [次へ]をクリックします。

8. [圧縮] ドロップダウンリストで、バックアップイメージの圧縮レベルを選択します。圧縮率は、バックアップされるファイルの種類によって異なります。

圧縮レベル	説明
なし	最も高速にバックアップイメージファイルを作成することができます。空き容量が十分にある場合には最適です。ただし、バックアップイメージファイルの保存先がアクセスの多いネットワークドライブである場合には、高い圧縮レベルを使用した方がネットワークを介して書き込むデータの量が少ないため、高速な場合があります。
標準 (推奨)	低い圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均40%圧縮します。デフォルトの圧縮率です。
中	中程度の圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均45%圧縮します。
高	高い圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均50%圧縮します。イメージファイルの作成に最も時間がかかります。

9. (必要に応じて)[作成後のバックアップイメージを検証]が選択されていることを確認します。

このオプションは、作成されたバックアップイメージファイルが有効かどうかをすぐに知りたい場合に便利です。バックアップイメージのすべてのファイルを開くことができるかどうか、バックアップイメージファイルの内部データ構造がデータに適合しているかどうか、バックアップイメージファイルを正しく解凍できるかどうかをチェックされます。

10. (必要に応じて) [バックアップイメージを複数ファイルに分割して圧縮格納]を選択し、各ファイルの最大サイズをMB単位で指定します。

一度、ハードディスクにバックアップイメージファイルを保存した後にバックアップイメージは、より小さく管理しやすいサイズに分割されるため、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアにコピーし、安全な場所に保管する場合などに便利です。

重要! このオプションを選択した場合、バックアップイメージの作成には約2倍の時間がかかります。

11. (必要に応じて) バックアップイメージの説明が入力できます。

説明を入力しなくても、バックアップイメージファイルのサイズと作成日時が自動的に追加されます。

12. (オプション)[詳細]オプションをクリックすると、バックアップイメージにパスワードを割り当てるなどの追加のオプションを指定することができます。

[詳細]オプション	説明
パスワードを使用する	<p>このオプションを選択すると、バックアップイメージにパスワードを設定することができます。パスワードには標準文字列を使用します。拡張文字列や記号を使用することはできません。21文字以内の半角英数字を使用してください。</p> <p>パスワードを設定すると、バックアップを復元する場合、またはBackup Image Browserでバックアップファイルを開く場合に、設定したパスワードを入力する必要があります。</p> <p>バックアップイメージファイルのパスワードを削除する方法については、30ページの「バックアップイメージのエクスポート（Backup Image Browser）」を参照してください。</p>
コピー時に不良セクタを無視	<p>このオプションを選択すると、ハードディスクに不良セクタがある場合でもバックアップを作成できる可能性があります。このオプションをつけてとったバックアップファイルは復元ができない可能性があります。</p>
SmartSector コピーの無効化	<p>SmartSector テクノロジーでは、データを含むクラスタとセクタのみがコピーされるので、コピープロセスを高速化することができます。ただし、データの有無に関係なく、すべてのクラスタとセクタを元のレイアウトのままコピーすることが望ましい場合もあります。</p> <p>その場合は、[SmartSector コピーの無効化]を選択します。このオプションを選択すると、コピープロセスの時間が長くなり、通常はバックアップイメージファイルのサイズが大きくなります。</p>

13. [次へ]をクリックします。
14. 直ちにバックアップイメージの作成を開始する場合は、[次へ]をクリックします。
バックアップが始まったら、進行状況が表示され、ウィザードを閉じることができます。
15. バックアップイメージが作成されたら、[隠す]をクリックしてコンソールに戻ります。

バックアップイメージの保存先を決定する方法

バックアップイメージは、ローカルハードディスク、ローカルリムーバブルメディア、共有ネットワークフォルダ、またはローカルのUSBまたはFireWireドライブに保存することができます。各オプションには長所と短所があります。次の表を参照することで、バックアップの最適な保存先を決定することができます。

	長所	短所
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none">• 高速に作成および復元できる• 無人バックアップをスケジュール設定できる• ディスク領域に繰り返し上書き可能で低コストである	<ul style="list-style-type: none">• ディスク領域を使用する• バックアップ対象のハードディスクと同じハードディスクにバックアップファイルがある場合には、ハードディスクが故障した場合にデータが失われやすい
リムーバブルメディア (ローカル)	<ul style="list-style-type: none">• ハードディスクが故障した場合にデータを保護できる• 別の場所での保管に最適である	<ul style="list-style-type: none">• 無人バックアップを実行できないので手動で処理する必要がある• コストが高くなる場合がある• 特に個々のファイルやフォルダを復元する場合に、他の場合よりも処理速度が遅い
USB/FireWire ハードディスク ドライブ (ローカル)	<ul style="list-style-type: none">• 高速に作成および復元できる• 無人バックアップをスケジュール設定できる• ディスク領域に繰り返し上書き可能で低コストである• 別の場所で保管できる• ハードディスク領域を他の用途のために確保できる	<ul style="list-style-type: none">• PowerQuest Recovery Environment (PQRE) で復元するためのストレージデバイスドライバをサポートしている必要があり、Windows XP 自体に組み込まれている標準的なドライバで認識ができないものは、利用できない可能性がある
共有ネットワーク フォルダ	<ul style="list-style-type: none">• 無人バックアップをスケジュール設定できる• ディスク領域に繰り返し上書き可能で低コストである• ローカルハードディスクが故障した場合にデータを保護できる• 既存のネットワークバックアップ方法を使用して、別の場所に保管できる	<ul style="list-style-type: none">• PowerQuest Recovery Environment (PQRE) で復元するためにはWindows XP に組み込まれている標準的なドライバで認識できないネットワークインターフェイスカードは、利用できない可能性がある• バックアップおよび復元を実行するユーザーに適切な権限を割り当てる必要がある

PowerQuest® PartitionMagic®を使用すると、ハードディスクの空き領域を調整して、バックアップイメージを格納するパーティションを作成することができます。

バックアップイメージのスケジューリング

[バックアップジョブの作成]機能を使用すると、毎日、毎週、または毎月のスケジュールを使用して自動的にバックアップイメージを作成することができます。この方法は、電源さえ入っていれば、コンピュータを利用していない時間にバックアップイメージを作成できるので便利です。

重要! Windows が休止状態やスタンバイになっている時間内のスケジュールはスキップされ、Windows 再開後の次のスケジュールまで正しく実行されません。

スケジュール設定によってではなく手動でバックアップイメージを作成する方法については、[16 ページの「バックアップイメージの作成」](#)を参照してください。

1. 詳細表示で、[ドライブ]タブをクリックし、[ツール]、[バックアップジョブの作成]の順にクリックします。
2. [次へ]をクリックします。
3. [完全バックアップ]または[増分を含むベースラインバックアップ]のいずれかを選択して[次へ]をクリックします。

バックアップを実行するドライブを選択します。複数のドライブを選択することができます。Shift キーを押しながらクリックすると、連続する複数のドライブを選択することができます。Ctrl キーを押しながらクリックすると、連続していない複数のドライブを選択することができます。

選択したドライブごとに別々のバックアップイメージファイルが作成されます。

目的のドライブをクリックすると、ドライブの使用領域および空き領域をグラフィカルに表示できます。

4. [次へ]をクリックします。

5. 作成したバックアップイメージファイルの保存先を選択します。

バックアップイメージ
の保存先

ローカルファイル	説明
	バックアップが実行されているコンピュータにバックアップイメージを保存する場合は、[ローカルファイル]をクリックして、バックアップイメージを保存するドライブとフォルダ（例：E:\Data_Backups）を指定します。
ネットワークファイル	バックアップイメージを共有ネットワーク フォルダに保存する場合は、[ネットワークファイル]をクリックしてバックアップイメージの保存先となるUNCパス（\\server\share）を指定するか、[参照]をクリックしてバックアップイメージの保存先となる共有ネットワークフォルダを指定します。
重要！ 共有ネットワーク フォルダには、インストール時に指定したユーザーアカウントとパスワードを使用してアクセスできる必要があります。	

重要！ バックアップ先としてCD-RW/DVD-RWを選択することはできません。

6. (必要に応じて)バックアップイメージのファイル名を変更するには、リストボックスで目的のバックアップイメージファイルの名前を選択して[名前の変更]をクリックし、新しい名前を入力します。
7. [次へ]をクリックします。
8. バックアップイメージを作成する周期と時刻を指定します。

オプション	説明
1回のみ	指定した日時に1回だけバックアップイメージを作成します。
毎週	このオプションは[完全バックアップ]を選択した場合のみ表示されます。毎週指定した時間にバックアップイメージを作成します。
毎月	毎月指定した日時にバックアップイメージを作成します。
スケジュールなし	バックアップフォルダの場所とスケジュールを除く、すべての設定を保存します。詳細表示で、[バックアップジョブ]タブをクリックして目的のバックアップジョブを選択し、[ツール]、[今すぐジョブを実行]の順にクリックすると、バックアップジョブを直ちに実行できます。また、バックアップジョブを選択し、[ツール]、[ジョブの編集]の順にクリックすると、スケジュールを割り当てることができます。

9. [次へ]をクリックします。

10. バックアップイメージの圧縮レベルを選択します。

圧縮レベル	説明
なし	最も高速にバックアップイメージファイルを作成することができます。空き容量が十分にある場合には最適です。ただし、バックアップイメージファイルの保存先がアクセスの多いネットワークドライブである場合には、高い圧縮レベルを使用した方がファイルに書き込むデータの量が少ないため、高速な場合があります。
標準 (推奨)	(デフォルト)低い圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均40%圧縮します。
中	中程度の圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均45%圧縮します。
高	高い圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均50%圧縮します。イメージファイルの作成に最も時間がかかります。

11. (必要に応じて)[作成後のバックアップイメージを検証]を選択します。

このオプションは、作成されたバックアップイメージファイルが有効かどうかをすぐに知りたい場合に便利です。このオプションを選択すると、バックアップイメージのすべてのファイルを開くことができるかどうか、バックアップイメージファイルの内部データ構造がデータに適しているかどうか、バックアップイメージファイルを正しく解凍できるかどうかをチェックされます。

12. (必要に応じて) [バックアップイメージを複数ファイルに分割して圧縮格納]を選択し、各ファイルの最大サイズをMB単位で指定します。

一度、ハードディスクにバックアップイメージファイルを保存した後にバックアップイメージは、より小さく管理しやすいサイズに分割されるため、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアにコピーし、安全な場所に保管する場合などに便利です。

重要! このオプションを選択した場合、バックアップイメージの作成には約2倍の時間がかかります。

13. (必要に応じて) [各ドライブに対応する完全バックアップまたはベースラインバックアップのイメージ数を制限]を選択し、増分バックアップを何世代保存しておくかを設定します。

指定した数に達した場合は、イメージを作成した後に、以前に作成した最も古いバックアップイメージファイルが同じストレージから削除されます。

重要! 指定した数よりも1つ多いバックアップイメージを保存できるハードディスクの空き容量が必要です。指定したバックアップイメージ数に達する前にハードディスクの空き容量が不足すると、増分バックアップイメージが作成されません。

14. (必要に応じて)このバックアップジョブで作成されるバックアップイメージの説明を入力します。

説明を入力しなくても、バックアップイメージファイルのサイズと作成日時が自動的に追加されます。

15. (オプション)[詳細]オプションをクリックしてオプションを追加します。

[詳細]オプション	説明
コピー時に不良セクタを無視	このオプションを選択すると、ハードディスクに不良セクタがある場合でもバックアップを作成できる可能性があります。このオプションをつけてとったバックアップファイルは復元ができない可能性があります。
SmartSector コピーの無効化	SmartSector テクノロジーでは、データを含むクラスタとセクタのみがコピーされるので、コピープロセスを高速化することができます。ただし、セキュリティが強化された環境などのように、すべてのクラスタとセクタを元のレイアウトのままコピーすることが望ましい場合もあります。 その場合は、[SmartSector コピーの無効化]を選択します。このオプションを選択すると、コピープロセスの時間が長くなり、通常はバックアップイメージファイルのサイズが大きくなります。
パスワードを使用する	このオプションを選択すると、バックアップイメージにパスワードを設定することができます。パスワードには標準文字列を使用します。拡張文字列や記号を使用することはできません。128文字以内の半角英数字を使用してください。 パスワードを設定すると、バックアップを復元する場合、またはBackup Image Browserでバックアップを開く場合に、設定したパスワードを入力する必要があります。

16. [次へ]をクリックします。

17. [終了]をクリックします。

バックアップイメージの作成についてのヒント

- バックアップをテストすることをお奨めします。バックアップが正しく実行され、作成したバックアップイメージが指定した場所に保存されたら、[バックアップジョブの作成]機能を使用して、定期的にバックアップを実行するようにスケジュールすることができます。
- バックアップジョブをテストするには、詳細表示で [バックアップジョブ] タブをクリックし、目的のバックアップジョブを選択します。[ツール]をクリックし、[今すぐジョブを実行]をクリックします。
- 新しいバックアップが作成されるたびに、詳細表示の各タブ([ドライブ]、[バックアップジョブ]、[バックアップ履歴]、[イベント])に情報が追加されます。最新のバックアップイメージが作成された日時、そのイメージの保存先、圧縮レベル、入力したイメージの説明など、バックアップイメージの詳細を表示するには[バックアップ履歴]タブまたは[バックアップジョブ]タブをクリックします。
- 設定したバックアップジョブは、後で編集または実行することができます。
- NTFS ボリュームでEFS (暗号化ファイルシステム) を使用している場合は、Backup Image Browser ツールを使用してボリュームをマウントしても、そのセキュリティは保持されます。ただし、Backup Image Browser ツールを使用してバックアップイメージファイル内のフォルダやファイルを単に(つまり、.V2iまたは.PQI ファイルをマウントしないで)表示する場合、ボリューム、フォルダ、ファイルのセキュリティは無視されます。
- バックアップイメージを作成しているときに、ディスクデフラグプログラムを実行したり、大量のデータのコピー、移動を行わないでください。予期しない結果になることがあります。
- 非表示状態のドライブに対するイメージファイルの名前は、均一に Unknown_Drive.v2i という名前がデフォルトでセットされますが、任意の名前をつけてください。

スケジュール設定されたバックアップジョブの迅速な実行

[今すぐジョブを実行]を使用して、バックアップイメージを直ちに作成することができます。

[今すぐジョブを実行]を使用するには、事前にバックアップジョブを作成しておく必要があります。バックアップジョブの作成方法については、[21 ページの「バックアップイメージのスケジューリング」](#)を参照してください。

1. 詳細表示で、[バックアップジョブ]タブをクリックします。
2. リストボックスで目的のバックアップジョブ名を選択し、[ツール]、[今すぐジョブを実行]の順にクリックします。
3. [OK]をクリックします。

バックアップスケジュールの編集

1. 詳細表示で、[バックアップジョブ]タブをクリックします。
2. リストボックスでバックアップジョブを選択します。
3. [ツール]をクリックして[ジョブの編集]をクリックすると、バックアップジョブウィザードで選択したジョブを開いてスケジュールや圧縮レベルなどのプロパティを変更することができます。

バックアップスケジュールの削除

1. 詳細表示で、[バックアップジョブ]タブをクリックします。
2. リストボックスでバックアップジョブを選択します。
3. [ツール]をクリックし、[ジョブの削除]をクリックします。

ドライブのバックアップ詳細の表示

ドライブのバックアップ履歴、ドライブのバックアップ作成に関するスケジュール、バックアップや圧縮の種類などの全般的なステータス情報、およびイメージの保存先を表示することができます。

1. 詳細表示で、[バックアップ履歴]タブをクリックします。

このタブでは、選択したドライブのすべてのバックアップの履歴を、既に削除したバックアップファイルも含め、バックアップイメージファイルの元の場所とともに時系で表示します。

履歴ファイルは、ドライブをバックアップしたときに指定したフォルダ内のサブディレクトリに保存されます。
2. 特定のバックアップに関する詳細情報を表示するには、リストで目的の履歴を選択します。

設定オプション

バックアップイメージファイルのデフォルトの保存先を指定することができます。バックアップの作成時に保存場所の指定を省略した場合、ここで設定した保存場所が使用されます。バックアップの作成中に発生したエラーや警告について、特定の電子メールアドレスに通知を送信するオプションを設定することもできます。

注意： 通常個人ユーザーは、この設定をしません。

通常バックアップファイルを保存する場所

1. [ツール]をクリックし、[オプション]をクリックします。
2. [デフォルトの設定]タブをクリックし、[バックアップファイルのデフォルトの格納場所]項目のドロップダウンリストで、「ローカルファイル」「ネットワークファイル」「CD-RW/DVD-RW」のいずれかを選択し、イメージファイルを保存するドライブとフォルダを指定します。

メールで通知

1. [通知]タブをクリックします。
2. [重要なイベントの通知を次の電子メールアドレスに送信します]を選択して有効にします。
3. バックアップに失敗するなどの重要なイベントに関する通知の送信先電子メールアドレスを入力します（例：v2imail@netjapan.co.jp）
4. (必要に応じて)[発信元アドレス]テキストフィールドに送信者の電子メールアドレスを入力します。
送信者の電子メールアドレスを指定しない場合は、製品名を利用したメールアドレスが自動生成されるので、極力わかりやすいメールアドレスを指定します。
5. 電子メールを送信するSMTPサーバーへのパスを指定します
(例：smtpserver.netjapan.co.jp)
6. [OK]をクリックします。

すべての通知は、製品のインストールディレクトリにあるシステムイベントログに自動的に送られます。詳細表示で[イベント]タブをクリックすると、製品内のログを表示することができます。

コンピュータをバックアップする権限の設定

V2i Protector セキュリティ構成ツールを使用し、ユーザーまたはグループにコンピュータをバックアップする権限を設定することができます。

注意： 通常個人ユーザーは、この設定をしません。

1. Windows の[スタート]をクリックし、[プログラム]、[PowerQuest V2i Protector]の順にポイントして、[V2i Security Configuration Tool]をクリックします。



2. [追加]をクリックします。



3. ユーザーまたはグループを選択し、[追加]をクリックします。

ダイアログの一番下のテキストボックスに、選択したユーザーまたはグループが表示されます。

4. [OK]をクリックします。

[V2i Security Configuration Tool]ダイアログに戻ります。リストボックスでユーザーまたはグループを選択して[削除]をクリックすれば、選択したユーザーまたはグループを削除することができます。

5. [閉じる]をクリックし、ダイアログを閉じます。

変更した内容をシステムに反映させるため、Microsoft サービスコンソール (SERVICES.MSC) を開き、V2i Protector サービスを一度停止して再開するか、コンピュータを再起動してください。ユーザーの「ログオフ」「ログイン」だけではサービスが再起動されないため、変更が反映されません。

バックアップイメージファイルの完全性チェック (Backup Image Browser)

[イメージを検証]機能を使用し、バックアップイメージファイルが有効か破損しているかを調べることができます。Backup Image Browserによって、バックアップイメージ内のすべてのファイルを開くことができるかどうか、バックアップイメージファイルの内部データ構造がデータに適合しているかどうか、バックアップイメージファイルを正しく解凍できるかどうかチェックされます。

1. Backup Image Browser のツリーペインで、チェックするバックアップイメージファイル (.V2i または .PQI) を選択します。
2. [ファイル]をクリックし、[イメージを検証]をクリックします。
3. チェックが完了したら、[OK]をクリックします。

バックアップイメージのエクスポート (Backup Image Browser)

Backup Image Browser で開いているバックアップイメージファイルを、さまざまな方法に合わせてエクスポートすることができます。たとえば、バックアップイメージファイルを640MB単位に再分割して、後でCD-Rに焼きなおすことができます。また、分割された複数のファイルを1つのバックアップイメージファイルにまとめることもできます。

説明や圧縮レベルを指定したり、パスワードを設定してバックアップイメージを保護することもできます。

1. Backup Image Browserの画面左側で、バックアップイメージファイルを選択します。
2. [ファイル]をクリックし、[バックアップイメージのエクスポート]をクリックします。
3. バックアップイメージの保存先を選択し、バックアップイメージファイル名を指定します。新しいファイル名の拡張子は.V2iになります。

バックアップイメージ の保存先

	説明
ローカルコンピュータにバックアップを保存したい場合	バックアップイメージを保存するローカルコンピュータのドライブ、フォルダ、およびファイル名を指定します (例: E:\Data_Backups\vol_1.v2i)。
共有ネットワークフォルダにバックアップを保存したい場合	バックアップイメージの保存先のUNC (Universal Naming Convention) パスを指定するか、[参照]をクリックして保存先フォルダを指定します。

重要! バックアップイメージファイルを保存するとき、既にかいているバックアップイメージファイルに対して上書きを行うことはできません。上書きを行おうとすると、イメージファイルが破損しますのでご注意ください。

4. (必要に応じて)[バックアップイメージを複数ファイルに分割してアーカイブ]を選択し、各ファイルの最大サイズをMB単位で指定します。たとえば、バックアップイメージをCDにコピーする場合は、640MB以下のファイルサイズを指定します。

バックアップイメージは、より小さく管理しやすいサイズに分割されるため、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアにコピーし、安全な場所に保管する場合などに便利です。

5. (必要に応じて) バックアップイメージの説明が入力できます。

説明を入力しなくても、ファイルのプロパティにはバックアップイメージファイルのサイズと作成日時が自動的に追加されます。

6. バックアップイメージの圧縮レベルを選択します。

圧縮レベル	説明
なし	最も高速にバックアップイメージファイルを作成することができます。空き容量が十分にある場合には最適です。ただし、バックアップイメージファイルの保存先がアクセスの多いネットワークドライブである場合には、高い圧縮レベルを使用した方がファイルに書き込むデータの量が少ないため、高速な場合があります。
標準	(デフォルト)低い圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均40%圧縮します。
中	中程度の圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均45%圧縮します。
高	高い圧縮率を使用し、バックアップイメージファイルを平均50%圧縮します。イメージファイルの作成に最も時間がかかります。

7. (必要に応じて)[パスワードを使用する]を選択すると、バックアップイメージファイルにパスワードを設定することができます。

バックアップを復元する場合、またはBackup Image Browserでバックアップファイルを開く場合に、このパスワードを入力する必要があります。

バックアップイメージファイルのパスワードを削除するには、上記手順の1と2を繰り返し、[パスワードを使用する]の選択を解除します。

8. [OK]をクリックします。

第 4 章

ファイルやフォルダの復元

- ファイルやフォルダの復元方法
- バックアップイメージからのファイルの復元
- V2i ボリュームのマウント
- V2i ドライブのマウント解除
- PQRE でのバックアップイメージからのファイルの復元
- バックアップイメージのプロパティの表示 (Backup Image Browser)
- バックアップイメージのボリュームのプロパティの表示 (Backup Image Browser)
- バックアップイメージ内のファイルの表示 (Backup Image Browser)

ファイルやフォルダの復元方法

2つの異なる方法で、ファイルやフォルダを復元することができます。(下表を参照) ほとんどの場合、復元を完了するためにコンピュータをシャットダウンする必要はありません。

重要! コンピュータの復元を実行する前に、[バックアップイメージ](#)を作成しておく必要があります。コンピュータのバックアップイメージが存在しない場合は、そのコンピュータ上のデータを復元できません。

事例	復元方法
コンピュータのオペレーティングシステムは起動するが、ドライブ上のデータを復元したい(オペレーティングシステムのファイルを除く)	Windows上でBackup Image Browserを使用し、必要なファイルやフォルダをバックアップイメージから復元します。 35ページの「バックアップイメージからのファイルの復元」 を参照してください。 再起動する必要がありますか?いいえ。
オペレーティングシステムを起動せず、Windowsの起動に関係のないデータを復元したい場合。	V2i Protector CDでシステムを起動し、 PowerQuest Recovery Environment (PQRE) でBackup Image Browserを使用して、バックアップイメージ内から必要なファイルやフォルダを復元します。 38ページの「PQREでのバックアップイメージからのファイルの復元」 を参照してください。 PQREからの復元時のヒントとトラブルシューティングについては、 56ページの「PQREからの復元時のヒントとトラブルシューティング」 を参照してください。 PQRE下での高度なサポートユーティリティの使用に関する情報については、 54ページの「PQREでのサポートユーティリティの使用」 を参照してください。

バックアップイメージからのファイルの復元

コンピュータに障害が発生してもオペレーティングシステムに問題がなければ、Backup Image Browser を使用して、**バックアップイメージ**の個別のファイルやフォルダを、Windows を起動したままで復元することができます。この修復方法を**ホットリストア**と呼びます。コンピュータの障害の原因が一部のファイルやフォルダによるものであることが判明している場合や、一部のデータファイルのみが失われているだけで、ドライブの復元ウィザードによるパーティション全体の復元が必要ない場合に使用します。

1. Backup Image Browser で、復元するファイルやフォルダのあるドライブが含まれているバックアップイメージファイル (.V2i または .PQI) をダブルクリックします。

Backup Image Browser を開くには、[11 ページの「PowerQuest Backup Image Browser を開く」](#)を参照してください。

2. 目的のドライブをダブルクリックします。
3. 復元するファイルまたはフォルダを選択します。

すべての項目を選択するには Ctrl キー + A を押します。

連続した一連のファイルを選択するには、最初のファイルをクリックし、Shift キーを押しながら最後のファイルをクリックします。

不連続の複数のファイルを選択するには、Ctrl キーを押したまま、目的のファイルをクリックします。

4. [ファイル] をクリックし、[復元] をクリックします。
5. [アイテムの復元] ダイアログの [このフォルダに復元] テキストフィールドには、バックアップイメージを作成したときのパスが自動的に表示されます (このパスが有効な場合)。バックアップされたドライブが隠しドライブであったため、ドライブ文字が含まれていない場合、ファイルまたはフォルダの復元を開始する前に、そのドライブのドライブ文字を入力する必要があります。

元のパスが不明であったり、選択したファイルを別の場所に復元する場合は、[参照] をクリックして復元先を選択します。

6. [復元] をクリックして、ファイルの復元を開始します。

ファイルの復元が完了すると、Backup Image Browser のメインウィンドウが表示されます。

バックアップイメージ内のファイルの編集

バックアップイメージ内のファイルを編集して、上書き、及び V2i ボリューム内に保存することはできません。Backup Image Browser でファイルを編集した場合には、書き込み可能な他の場所に保存してください。

V2i ボリュームのマウント

Backup Image Browser および Windows エクスプローラを使用して、バックアップイメージファイル (.V2i または .PQI) 内のドライブをマウントすることができます。使用領域や空き領域などのドライブ情報の表示するだけでなく、フォルダやファイルを他のドライブにコピーしたり、バックアップイメージにあるプログラムを実行することも可能です。

ScanDisk (または CHKDSK) ウイルスチェックなどを行うことはできますが、ファイルの修復やウイルスを除去することはできません。見かけ上それらが実行された場合でも、イメージファイル内は書き換えられていません。

マウントしたドライブは、共有ドライブとして設定することができます。ネットワークから共有ドライブに接続し、マウントされたバックアップイメージ内のファイルやフォルダを復元することができます。

同時に複数のイメージをマウントすることができます。マウントを解除するか、またはコンピュータを再起動するまで、マウントしたドライブはそのまま使用できます。ドライブをマウントしても、ハードディスクの空き領域を新たに消費することはありません。

NTFS ボリュームで EFS (暗号化ファイル システム) を使用している場合は、ボリュームをマウントしても、そのセキュリティは保持されます。

バックアップイメージ内のファイルやフォルダを復元するためにドライブをマウントする必要はありません。

マウントしたドライブ内のフォルダやファイルは読み取り専用です。

CD/DVD、リムーバブルディスクに保存したイメージファイルは、そのままではマウントできません。必ずローカルディスクにイメージファイルをコピーしてからマウントを行ってください。また、イメージファイルが複数枚のメディアに分割されている場合は、すべてのイメージファイルを同じディレクトリ上にコピーしてからマウントを行ってください。

重要! バックアップイメージを Windows 2000 でマウントした場合は、実際には読み取り専用であっても、読み取り/書き込みドライブとして表示されます。このドライブに対するファイルの削除やコピーなどの操作による変更内容は、マウントが解除されるとすべて失われます。

Backup Image Browser から

1. Backup Image Browser で、マウントするドライブが含まれているバックアップイメージファイルを選択します。
2. [ファイル] をクリックし、[V2i ボリュームをマウント] をクリックします。
3. マウントするボリュームラベルを選択します。
4. 選択したドライブに割り当てる文字を [ドライブレター] ドロップダウンリストから選択します。

5. [OK]をクリックします。さらに別のドライブをマウントする場合は上の手順を繰り返します。

マウントしたV2iドライブがBackup Image Browserのツリーペインに表示され、マウントしたドライブのドライブ文字を選択した状態でWindows エクスプローラが自動的に開きます。

Windows エクスプローラから

1. バックアップイメージファイルを探します。
2. バックアップイメージファイルを右クリックし、[マウント]をクリックします。
3. マウントするボリュームラベルを選択します。
4. 選択したドライブに割り当てるドライブレターを[ドライブレター]ドロップダウンリストから選択します。
5. [OK]をクリックします。さらに別のドライブをマウントする場合は上の手順を繰り返します。

マウントしたV2iドライブがBackup Image Browserのツリーペインに表示され、マウントしたドライブが選択された状態でWindows エクスプローラが自動的に開きます。

V2iドライブのマウント解除

Backup Image Browserからのマウント解除

1. Backup Image Browserのツリーペインで、マウントしたバックアップイメージファイルを選択し、[ファイル]をクリックして[V2iボリュームをマウント解除]をクリックします。

マウントしたすべてのドライブを一度にマウント解除するには、ツリーペインで[マウントされたV2iボリューム]をクリックし、[ファイル]、[すべてのV2iボリュームをマウント解除]の順にクリックします。また、コンピュータの再起動によっても、Windows エクスプローラおよびBackup Image BrowserでマウントされたすべてのV2iドライブをマウント解除することができます。

Windows エクスプローラからのマウント解除

1. マウントしたV2iドライブを探します。
2. ドライブを右クリックして、[V2iボリュームのマウント解除]をクリックします。

また、コンピュータの再起動によっても、Windows エクスプローラおよびBackup Image BrowserでマウントされたすべてのV2iドライブをマウント解除することができます。

PQRE でのバックアップイメージからのファイルの復元

PowerQuest Recovery Environment (PQRE) を使用して、バックアップイメージ内のファイルを復元することができます。

PQRE からの復元時のヒントとトラブルシューティングについては、56 ページの「PQRE からの復元時のヒントとトラブルシューティング」を参照してください。

PQRE にはネットワークやハードウェアのトラブルシューティングに使用するサポートユーティリティが用意されており、実行時にメインウィンドウから使用することができます。たとえば、サーバーへの ping、IP アドレスの更新、ハードディスクパーティションテーブル情報の取得などを行うことができます。これらのユーティリティに関する情報については、54 ページの「PQRE でのサポートユーティリティの使用」を参照してください。

重要! PQRE を実行するには、最低でも 256 MB の RAM が必要です。

1. CD-ROM ドライブに PowerQuest V2i Protector の CD を挿入します。
2. コンピュータを再起動します。
(必要に応じて) CD から起動できるようにシステムを変更します。67 ページの「CD から起動できません。」を参照してください。
3. コンピュータの画面を確認します。" Press any key to boot from CD.. " というメッセージが表示されてから約 5 秒以内にキーを押すと、CD からの PQRE の起動が始まります。
4. (必要に応じて) PQRE の起動時に F6 キーを押し、コンピュータのハードディスクサブシステム用の RAID または SCSI ドライバを組み込むことができます。
68 ページの「バックアップが保存されているローカルドライブにアクセスできません。」を参照してください。
5. [Backup Image Browser] をクリックします。
6. [Open] ダイアログで、復元するバックアップイメージフォルダやバックアップイメージファイルのあるバックアップイメージファイル (.V2i または .PQI) を開きます。

重要! PQRE でのドライブ文字は Windows 環境のものとは一致しません。

7. Backup Image Browser のメニューから [File] ををクリックし、[Open] をクリックして、必要なバックアップイメージファイルを探します。
[Open] ダイアログでネットワークを参照できない場合は、[File name] テキストボックスに、バックアップイメージが保存されているサーバー名と共有名を入力し (構文 - ¥¥server_name¥¥share_name)、Enter キーを押します。バックアップイメージファイルを選択し、[Open] をクリックして、Backup Image Browser のツリーペインに追加します。選択したバックアップイメージファイルの名前をダブルクリックして、使用可能なドライブを表示します。

サーバー名と共有名を入力してもネットワークが表示されない場合は、ドライブをマッピングしてネットワークを参照する必要があるかもしれません。詳細については、[56ページの「PQREでの復元中のネットワークの接続」](#)を参照してください。

8. Backup Image Browserの内容ペインで、復元するファイルやフォルダを選択します。
すべての項目を選択する場合にはCtrlキー + Aを押します。
連続した一連のファイルを選択するには、最初のファイルをクリックし、Shiftキーを押しながら最後のファイルをクリックします。
不連続の複数のファイルを選択するには、Ctrlキーを押したまま、各ファイルをクリックします。
9. [File]をクリックし、[Restore]をクリックします。
以前のバージョンのDrive ImageまたはBackup Image Browserで作成したイメージファイルを選択した場合は、Backup Image Browserがイメージインデックスを展開している間、進行状況バーが表示されます。
10. [Restore Items]ダイアログの[Restore to this folder]テキストフィールドには、バックアップイメージを作成したときの元のパスが自動的に表示されます（このパスが有効な場合）。元の場所にドライブ文字が含まれていない場合は（このバックアップイメージを作成したときは隠しドライブであったため）、ファイルまたはフォルダの復元を開始する前に、そのドライブのドライブ文字を入力する必要があります。
元のパスが不明であったり、選択したファイルを別の場所に復元する場合は、[Browse]をクリックして復元先を選択します。
11. [Restore]をクリックして、ファイルの復元を開始します。

バックアップイメージのプロパティの表示 (Backup Image Browser)

1. Backup Image Browserのツリーペインで、目的のバックアップイメージファイル(.V2iまたは.PQI)を選択します。
2. [File]をクリックして[Properties]をクリックするか、バックアップイメージファイルを右クリックして[Properties]をクリックします。

イメージのプロパティ	説明
Description	このバックアップイメージの説明。この説明は、ドライブのバックアップウィザードやバックアップジョブの作成ウィザードの使用、またはBackup Image Browserの[Export Backup Image]機能の使用時に入力します。
Size	バックアップイメージのサイズ (MB)。
Created	バックアップイメージの作成日時。
Compression	バックアップイメージで使用されている圧縮レベル。
Spanned	バックアップイメージが複数のファイルに分割されているかどうかを示します。
Password protected	バックアップイメージにパスワードが設定されているかどうかを示します。ここで設定されているパスワードは、ドライブのバックアップウィザードやバックアップジョブの作成ウィザードの[詳細]または、Backup Image Browserの[Export Backup Image]機能で設定したものです。
Version	バックアップイメージファイルのバージョン番号。

バックアップイメージのボリュームのプロパティの表示 (Backup Image Browser)

1. Backup Image Browserのツリーペインで、目的のドライブが含まれているバックアップイメージファイル（.V2iまたは.PQI）をダブルクリックします。
2. ドライブを選択します。
3. [File] をクリックしてから [Properties] をクリックするか、ドライブを右クリックして [Properties] をクリックします。

ボリュームの プロパティ	説明
Description	ボリュームの説明。
Original drive letter	ボリュームに割り当てられていた元のドライブレター。
Cluster size	FAT、FAT32、またはNTFS ドライブで使用している クラスタサイズ (バイト)。
File system	ボリュームで使用しているファイルシステム (FAT、FAT32、NTFS など)。
Primary/Logical	ボリュームのパーティションの種類。基本 (基本パーティション) または論理 (論理パーティション) のいずれか。
Size	ボリュームの総サイズ (MB)。使用領域と空き領域の両方が含まれます。
Used space	ボリューム内の使用領域の容量 (MB)。
Unused space	ボリューム内の空き領域の容量 (MB)。

バックアップイメージ内のファイルの表示 (Backup Image Browser)

Backup Image Browser でバックアップイメージファイルを開き、保存されているファイルをダブルクリックすると、そのファイルタイプに割り当てられているプログラムが起動します。使用するプログラムが割り当てられていない場合は、Windows の [ファイルを開くアプリケーションの選択] ダイアログが表示されます。このダイアログで、使用するプログラムを選択することができます。PowerQuest Recovery Environment (PQRE) の Backup Image Browser では、この機能は使えません。

EFS (暗号化ファイルシステム) を使用しているフォルダ内のファイルは、Backup Image Browser で表示することができません。

1. Backup Image Browser のツリーペインで、バックアップイメージファイル (.V2i または .PQI) をダブルクリックして、ドライブの一覧を表示します。
2. ツリーペインでドライブを選択します。
3. 内容ペインで、表示するファイルが保存されているフォルダを選択します。
4. 内容ペインで、表示するファイルを選択し、[ファイル] をクリックして [ファイルを表示] をクリックします。

.EXE、.DLL、または .COM 拡張子のプログラムファイルを選択した場合は、[ファイルを表示] オプションは使用できません (淡色表示)。

第 5 章

バックアップイメージの復元

- [コンピュータの復元方法](#)
- [バックアップイメージの復元](#)
- [PQRE での単一ドライブの復元](#)
- [PQRE での複数のドライブの復元](#)
- [PQRE でのシステムインデックスファイルを使用した複数のドライブの復元](#)
- [PQRE でのサポートユーティリティの使用](#)
- [PQRE からの復元時のヒントとトラブルシューティング](#)

コンピュータの復元方法

コンピュータをバックアップした時点で復元する方法は2種類あります（下表を参照）。

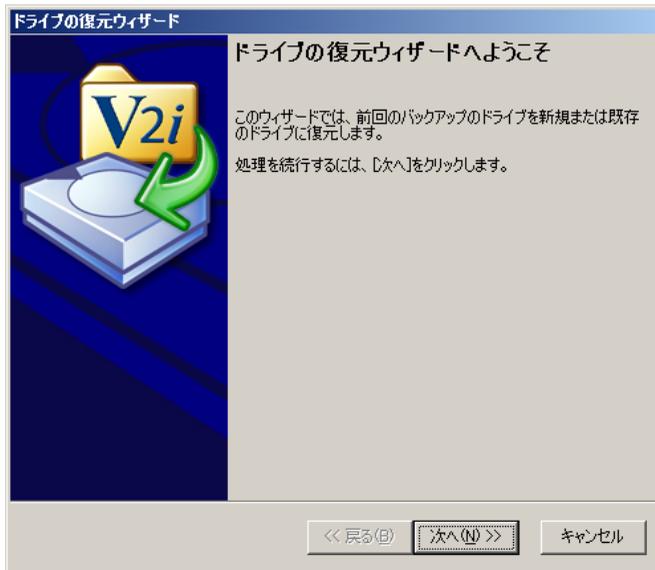
重要！ コンピュータの復元を実行する前に、[バックアップイメージ](#)を作成しておく必要があります。ドライブのバックアップイメージを作成していないコンピュータでは、そのオペレーティングシステムやデータを復元することはできません。

事例	復元方法
現在OSを起動している領域以外の復元をしたい	<p>バックアップイメージを復元します。45 ページの「バックアップイメージの復元」を参照してください。</p> <p>Windows 上から復元を行うことができます。通常は再起動の必要はありません。</p>
OS が起動しないか、あるいはOS は起動するがバックアップした時点に戻したい	<p>PowerQuest V2i Protector の CD でシステムを起動し、PowerQuest Recovery Environment (PQRE) で System Restore ウィザードを使用してドライブ全体を復元します。</p> <p>目的に応じて、次のタスクを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• 48 ページの「PQRE での単一ドライブの復元」• 51 ページの「PQRE での複数のドライブの復元」• 53 ページの「PQRE でのシステムインデックスファイルを使用した複数のドライブの復元」 <p>Windows 上で復元の設定を行った後に、再起動が必要です。</p>

バックアップイメージの復元

コンピュータに障害が発生しても、オペレーティングシステムが起動できるのであれば、ドライブの復元ウィザードを使用して、ダウンタイムなしでデータドライブを復元することができます。この修復方法を**ホットリストア**と呼び、データドライブが完全に失われた場合などに最適です。

1. ドライブの復元ウィザードをクリックしてください。
2. [次へ]をクリックしてください。



3. 復元するバックアップイメージファイルを指定します。

復元元	説明
ローカルファイル	復元するコンピュータに保存されているバックアップイメージを復元するには、[ローカルファイル]をクリックして、バックアップイメージが保存されている場所を指定します（構文 - E:¥Data_Backups¥）。
	CD-ROM/DVD-ROM に保存されているバックアップイメージを復元するには、CDまたはDVD ドライブを参照します。そのドライブにメディアがあることを確認した後[参照]をクリックします。

復元元	説明
ネットワークファイル	共有ネットワーク フォルダに保存されているバックアップイメージを復元するには、[ネットワークファイル]をクリックして、バックアップイメージが保存されているネットワーク上のUNC (Universal Naming Convention)パス (構文 - ¥¥ネットワークコンピュータ名¥共有名¥ファイル名) を指定するか、または[参照]をクリックして、バックアップイメージが保存されている共有ネットワークフォルダを選択します。 重要! 共有ネットワークフォルダには、インストール時に指定したユーザーアカウントとパスワードでアクセスする必要があります。

4. [次へ]をクリックします。
5. (必要に応じて) バックアップイメージがパスワードで保護されている場合は、パスワードを入力して[OK]をクリックします。
6. バックアップイメージファイルの復元先を選択します。
バックアップイメージファイルの復元に必要な空き領域がない場合は、Shift キーを押して、同じハードディスク上に存在する複数の連続した復元先を選択します。
復元先には、元のドライブと同じだけの空き領域が必要です。
7. [次へ]をクリックします。
8. 必要に応じて、復元オプションを選択または選択解除します。
実際に使用可能なオプションは、前の手順で選択した復元先に依存します。

[復元]オプション	説明
OSを起動するためにボリュームをアクティブに設定	復元したドライブをアクティブパーティション (起動パーティション) にします。アクティブにできるドライブは1つだけです。コンピュータを起動するためには、先頭のドライブがアクティブパーティションであり、オペレーティングシステムがこのドライブにインストールされている必要があります。コンピュータはハードディスクのマスターブートレコードを読み込み、アクティブなドライブを探し、そのドライブから起動します。ハードディスクから起動できない場合は、起動ディスクを使用します。 論理ドライブまたは、ダイナミックディスクの場合には、このオプションは利用できません。

[復元]オプション	説明
未割り当て領域を最大限に利用するようにボリュームのサイズを変更	バックアップイメージを、復元先の空き領域のサイズに合わせて自動的に拡大(縮小はできません)します。
復元前のイメージファイルを検証	復元を実行する前に、バックアップイメージファイルが有効かどうかを確認します。ウィザードによって、バックアップイメージファイル内のすべてのファイルを開くことができるかどうか、バックアップイメージファイルの内部データ構造がデータに適合しているかどうか、バックアップイメージファイルを正しく解凍できるかどうか(作成時に「なし」以外の圧縮レベルを選択した場合)がチェックされます。バックアップイメージに問題がある場合は、復元は中止されます。
ファイルシステムのエラーを確認	バックアップイメージファイルの復元後に、復元したドライブにエラーがないかチェックします。
パーティションタイプ	基本パーティションを復元するには[基本パーティション]をクリックします。 拡張パーティション内の論理パーティションを復元するには[論理パーティション]をクリックします。
ドライブ名	パーティションに割り当てられたドライブレターをドロップダウンリストで選択します。

9. [次へ]をクリックします。

10. ドライブの復元ウィザードの完了が表示されるので[次へ]をクリックしてイメージの復元を開始します。

復元するドライブが使用中の場合(他のソフトやOSが、復元先のドライブにアクセスしている場合)、PowerQuest Recovery Environment (PQRE) から起動する必要があるため、インストール用のCDの挿入を求めるダイアログが表示されます。PowerQuest V2i ProtectorのCDをドライブに入れ、コンピュータを再起動してください。"Press any key to boot from CD.."と表示がでたら、すぐに何かキーを押してください。PQREが起動すると、PQREのメニューは表示されずに自動的に復元が始まります。復元が完了すると、自動的に再起動します。

PQREでの単一ドライブの復元

Windows上でファイルやフォルダの復元ができない場合は(OSが正しく起動しない、ハードディスクの空き領域が不足など)、[PowerQuest Recovery Environment \(PQRE\)](#)のSystem Restore ウィザードを使用して、コンピュータ上のドライブを完全に元の状態に修復することができます。

PQREでは、単一のドライブ、複数のドライブ、システムインデックスファイル(.sv2i)を使用した複数のドライブを復元することができます。

重要! PQREを実行するには、最低でも256MBのメモリが必要です。

1. CD-ROMドライブにPowerQuest V2i ProtectorのCDを挿入します。
2. コンピュータを再起動します。
(必要に応じて)CDから起動できるようにシステムを変更します。[67ページの「CDから起動できません。」](#)を参照してください。
3. コンピュータの画面を確認します。" Press any key to boot from CD. "というメッセージが表示されてから約5秒以内にキーを押すと、CDからのPQREの起動が開始します。
4. (必要に応じて)PQREの起動時にF6キーを押し、コンピュータのハードディスクサブシステム用のRAIDまたはSCSIドライバを組み込むことができます。
[68ページの「バックアップが保存されているローカルドライブにアクセスできません。」](#)を参照してください。
5. [System Restore]をクリックします。

重要! PQREでのドライブレターはWindows環境のものとは一致しません。

6. [Restore drives]をクリックし、[Next]をクリックします。
7. [Single drive]をクリックし、[Next]をクリックします。
8. 復元するバックアップイメージファイル(.V2I)の場所を指定するか、または[Browse]をクリックして、必要なバックアップイメージファイルを選択します。

[Browse]をクリックしても[Open]ダイアログでネットワークを参照できない場合は、[File name]テキストボックスに、バックアップイメージが保存されているコンピュータ名と共有名を入力し(構文 - ¥¥ネットワークコンピュータ名¥共有名¥ファイル名¥) Enterキーを押します。バックアップイメージファイルを選択し、[Open]をクリックして、テキストフィールドに追加します。

詳細については、[56ページの「PQREでの復元中のネットワークの接続」](#)を参照してください。

バックアップイメージにパスワードが設定されている場合は、ここでパスワードを入力する必要があります。

9. [Next] をクリックします。
10. 復元するドライブを選択します。
 選択したドライブに必要な空き領域がない場合、復元することはできません。
11. 必要に応じて不要なドライブを削除し、ディスクの空き領域を増やすには、不要なドライブを選択し、[Delete Drive] をクリックします。この手順は、ハードディスク上に不要なドライブが存在する場合に使用します。

重要： [Delete Drive] をクリックすると、その時点では、ドライブは仮想的に削除されるだけですが、復元を開始してしまうと実際に削除されます。復元を開始する前であれば、[Back] で戻って[Undo Delete] をクリックすることで、ドライブの削除を取り消すことができます。

12. [Next] をクリックします。
13. 必要に応じて、復元オプションを選択または選択解除します。

実際に使用可能なオプションは、前の手順で選択した復元先に依存します。

[復元]オプション	説明
Verify backup image before restore	復元するバックアップイメージファイルが有効かどうかを調べます。バックアップイメージファイル内の内部データ構造が使用可能なデータに適合しているかどうか、バックアップイメージファイルを正しく解凍できるかどうか(作成時に圧縮レベルを選択した場合)がチェックされます。バックアップイメージに問題がある場合は、復元は中止されます。 このオプションは、デフォルトで選択されていますが、チェックをはずすことも可能です。
Check for file system errors after restore	ファイルシステムのエラーをチェックします。バックアップイメージファイルの復元後に、ハードディスクのエラーをチェックします。
Resize drive to fill unallocated space	バックアップイメージを、復元先の空き領域のサイズに合わせて自動的に拡大(縮小はできません)します。

[高度なオプション]
オプション

説明

Set drive active (for booting OS)

復元したドライブをアクティブパーティション(起動パーティション)にします。アクティブにできるドライブは1つだけです。コンピュータを起動するためには、先頭のドライブがアクティブパーティションであり、オペレーティングシステムがこのドライブにインストールされている必要があります。コンピュータはハードディスクのマスターブートレコードを読み込み、アクティブなドライブを探し、そのドライブから起動します。ハードディスクから起動できない場合は、起動ディスクを使用します。

論理ドライブまたは、ダイナミックディスクの場合には、このオプションは利用できません。

Partition type

基本パーティションを復元するには [Primary partition] をクリックします。

拡張パーティション内の論理パーティションを復元するには [Logical partition] をクリックします。このオプションは、ダイナミックディスクには適用できません。

Restore original disk signature

ハードディスクの物理ディスク署名を復元します。

Restore MBR

マスターブートレコードを復元します。マスターブートレコードは、最初の物理ハードディスクの最初のセクタに含まれています。MBRは、マスターブートプログラムと、ディスクパーティションを記述するパーティションテーブルから構成されています。マスターブートプログラムは、パーティションテーブルを参照して、アクティブな基本パーティションを調べます。その後、アクティブなパーティションのブートセクタからブートプログラムを起動します。

14. [Next] をクリックします。
15. (必要に応じて) バックアップイメージの復元後に自動的にコンピュータを再起動する場合は、 [Reboot after finish] を選択します。
16. [Finish] をクリックしてバックアップイメージを復元します。

PQRE での複数のドライブの復元

PowerQuest Recovery Environment (PQRE) で System Restore ウィザードを使用して、複数のドライブが存在するコンピュータ全体を復元することができます。

重要! PQRE を実行するには、最低でも 256MB のメモリが必要です。

1. CD-ROM ドライブに PowerQuest V2i Protector の CD を挿入します。
2. コンピュータを再起動します。
(必要に応じて) CD から起動できるようにシステムを変更します。67 ページの「CD から起動できません。」を参照してください。
3. コンピュータの画面を確認します。" Press any key to boot from CD.. " というメッセージが表示されてから約 5 秒以内にキーを押すと、CD からの PQRE の起動が開始します。
4. (必要に応じて) PQRE の起動時に F6 キーを押し、コンピュータのハードディスクサブシステム用の RAID または SCSI ドライバを組み込むことができます。
68 ページの「バックアップが保存されているローカルドライブにアクセスできません。」を参照してください。
5. [System Restore] をクリックします。
重要! PQRE でのドライブ文字は Windows 環境のものとは一致しません。
6. [Restore drives] をクリックし、[Next] をクリックします。
7. [Multiple drives] をクリックし、[Next] をクリックします。

8. 復元するバックアップイメージのファイル名を [add] ボタンでリストに追加します。

オプション	説明
add	<p>a). リストにバックアップイメージファイルを追加するには、[追加]をクリックして、バックアップイメージファイル(.V2i または .PQI) が保存されている場所を指定します。</p> <p>b). [Next]] をクリックします。</p> <p>c). バックアップイメージファイルの復元先ドライブを選択します。</p> <p>選択したドライブに必要な空き領域がない場合、復元することはできません。</p> <p>d). (必要に応じて) ディスクの空き領域を増やすには、不要なドライブを選択し、[Delete Drive] をクリックします。</p> <p>この手順は、ハードディスク上に不要なドライブが存在する場合に使用します。</p> <p>重要! [Delete Drive] をクリックすると、その時点では、ドライブは仮想的に削除されるだけですが、復元を開始してしまうと実際に削除されます。復元を開始する前であれば、[Back] で戻って [Undo Delete] をクリックすることで、ドライブの削除を取り消すことができます。</p> <p>ドライブの削除機能では、複数のドライブに使用されていた領域を選択することができます。</p> <p>e). [Next] をクリックします。</p> <p>f). 必要に応じて、復元オプションを選択または選択解除します。各オプションの詳細については、49 ページの[復元]オプションの表を参照してください。</p>
変更	バックアップイメージのリストを編集するには、復元するバックアップイメージのリストからファイル名を選択し、[Change] をクリックします。バックアップイメージへのパスを新たに指定するか、またはバックアップイメージの新しいファイル名を選択します。
削除	復元するバックアップイメージのリストからファイル名を削除するには、ファイル名を選択して [Remove] をクリックします。

9. (必要に応じて)バックアップイメージの復元後に自動的にコンピュータを再起動する場合は、[Reboot after finish] をチェックします。

10. [Finish] をクリックしてバックアップイメージを復元します。

PQREでのシステムインデックスファイルを使用した複数のドライブの復元

PowerQuest Recovery Environment (PQRE) で System Restore ウィザードを使用して、複数のドライブを復元することができます。この復元では、システムインデックスファイル (.sv2i) を使用して、ドライブの復元に必要な時間を短縮します。バックアップイメージが作成されるたびに、システムインデックスファイルと一緒に保存されます。システムインデックスファイルには、最新のバックアップイメージファイルのリストが保存され、このリストには各バックアップイメージファイルに含まれるドライブの元の場所が含まれています。

重要! PQRE を実行するには、最低でも 256MB のメモリが必要です。

1. CD-ROM ドライブに PowerQuest V2i Protector の CD を挿入します。
2. コンピュータを再起動します。
(必要に応じて) CD から起動できるようにシステムを変更します。67 ページの「CD から起動できません。」を参照してください。
3. コンピュータの画面を確認します。" Press any key to boot from CD. " というメッセージが表示されてから約 5 秒以内にキーを押すと、CD からの PQRE の起動が始まります。
4. (必要に応じて) PQRE の起動時に F6 キーを押し、コンピュータのハードディスクサブシステム用の RAID または SCSI ドライバを組み込むことができます。
68 ページの「バックアップが保存されているローカルドライブにアクセスできません。」を参照してください。

5. [System Restore] をクリックします。

重要! PQRE でのドライブレターは Windows 環境のものとは一致しません。

6. [Restore drives] をクリックし、[Next] をクリックします。
7. [Multiple drives using system index file (*.sv2i)] をクリックし、[Next] をクリックします。
8. システムインデックスファイル (.sv2i) への完全なパスを指定するか、または [Browse] をクリックしてシステムインデックスファイルを指定します。
システムインデックスファイルは、バックアップイメージファイルと同じ場所に保存されています。
9. [Next] をクリックし、復元するバックアップイメージのファイル名をリストボックスから選択します。

リストボックス内のバックアップイメージファイルを追加、変更、または削除するには、52 ページのオプションの表を参照してください。

10. (必要に応じて)バックアップイメージの復元後に自動的にコンピュータを再起動する場合は、[Reboot after finish]をチェックします。
11. [Finish]をクリックしてバックアップイメージを復元します。

PQRE でのサポートユーティリティの使用

ネットワークやハードウェアのトラブルシューティングに使用するサポートユーティリティが用意されており、[PowerQuest Recovery Environment \(PQRE\)](#) のメインウィンドウから使用することができます。たとえば、コンピュータへの ping、アドレスの更新、ハードディスクパーティションテーブル情報の取得などを行うことができます。

これらのユーティリティで取得した情報は、問題を解決するために弊社のテクニカルサポートへお問い合わせいただく際に必要となることがあります。

重要! PQRE を実行するには、最低でも 256MB の RAM が必要です。

1. PQRE のメインウィンドウで [Utilities] をクリックします。
2. 実行するユーティリティをクリックします。

サポートユーティリティ	説明
Map Network Drive	56 ページの「PQRE での復元中のネットワークの接続」 を参照してください。
Configure IP Address	57 ページの「PQRE の実行時に静的 IP アドレスを取得する方法」 を参照してください。
PARTINNT.EXE	ハードディスクパーティションテーブルの内容のレポートを作成することができます。このレポートは、さまざまなディスクパーティションの問題の診断や修正に役立ちます。 必要に応じ、この情報をフロッピーディスク等に保存し、テクニカルサポートに送ることができます。
PQBOOT32.EXE	起動可能な基本パーティションを簡単に切り換えることができます。アクティブパーティションを切り換える必要のある場合に使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • 起動する基本パーティションの ID 番号 (最初のカラムに表示されます) を入力し、Enter キーを押します。 指定したパーティションがアクティブに変更され、コンピュータが再起動されます。その際、その他の基本パーティションは非表示になります。

サポートユーティリティ 説明

PTEDIT32.EXE	<p>PTEdit (パーティションテーブルエディタ) を使用して、マスターブートレコードおよび EPBR ブートレコードのパーティションテーブル情報の表示や操作を行うことができます。PTEdit は、パーティションテーブルのエラーやブートセクタの修復に便利です。</p> <p>パーティションテーブルの編集には、16 進数ではなく 10 進数を使用することができます。また、ファイルシステムフラグの変更、アクティブパーティションの設定、隠しパーティションの設定または解除、および CHS 値、ブートセクタ情報、パーティションのセクタ数の変更を行うことができます。セクタ数を変更する場合は、最終結果が CHS 値と一致していなければなりません。</p> <p>PTEdit でのパーティションテーブル情報は相対的な値です。ドライブの最初からパーティションのブートセクタまでのセクタの絶対的な値を計算して、基本パーティションの開始セクタの値を得ています。</p>
RESTOREMBR.EXE	<p>マスターブートレコードの起動用コードを Windows 標準の情報で初期化することができます。ボリュームのアクティブ設定などが正しく設定されているのに、Windows を起動できない場合に RestoreMBR を使用して起動ドライブのマスターブートレコードを初期化すると、起動できるようになることがあります。</p>
SMEDUMP.EXE	<p>コンピュータ上のハードディスクについての情報を表示するために使用します。</p> <p>必要に応じ、この情報 (SMEDUMP.TXT) をフロッピーディスクに保存し、テクニカルサポートに送ることができます。</p>
IPCONFIG.EXE	<p>IP の構成、特に、ネットワークアダプタの情報を表示するために使用します。このユーティリティを使用して、IP アドレスのリリースや更新を行うこともできます。</p> <p>必要に応じ、この情報をテキストファイル (IPCONFIG.TXT) に保存し、テクニカルサポートに送ることができます。</p>
PING.EXE	<p>バックアップするコンピュータが動作しているか、そのコンピュータへのネットワーク接続が正しく機能しているかを調べるために、この Ping を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none">• チェックするコンピュータの IP アドレスを入力して [OK] をクリックします。
CHKDSK.EXE	<p>ディスクのエラーをチェックするときに使用します。</p>

PQRE からの復元時のヒントとトラブルシューティング

下記の情報は、[PowerQuest Recovery Environment \(PQRE \)](#)からの復元の実行や、バックアップイメージの復元時に発生した問題の解決に役立ちます。

PQRE の使用方法

コンピュータの障害によりオペレーティングシステムが動作しなくなり、復元が不可能と思える場合もあります。このような際に PowerQuest V2i Protector の CD を使用してコンピュータを起動します。コンピュータは、PQRE モードで起動し、System Restore ウィザード (バックアップイメージの復元) または Backup Image Browser (ファイルごとの復元) を実行することができます。

PQRE を使用すれば、Windows が起動しないときでも、ほとんどの場合にバックアップイメージの復元を実行することができます。バックアップイメージの復元を行うと、ハードウェアに問題がなければ、コンピュータは元の状態に修復されます。

PQRE での USB デバイスの実行

PQRE で USB デバイスを使用できるようにするには、PQRE を起動する前に使用する USB デバイスを接続し、電源を入れておく必要があります。PQRE が起動してから接続したデバイスは認識することができません。

PQRE での復元中のネットワークの接続

DHCP サーバーが存在しない (または DHCP サーバーがダウンした) 環境で、直接 PQRE を起動する場合は、PQRE を実行しているコンピュータの静的 IP アドレスとサブネットマスクの入力が必要になります。

静的 IP アドレスとサブネットマスクを正しく入力すると、PQRE が使用できるようになります。ただし、コンピュータ名を解決する方法がないため、System Restore ウィザードまたは Backup Image Browser を実行しても、ネットワーク上でバックアップイメージファイルを参照することができません。この問題を解決するには、下記の手順を実行します。

1. PQRE のメインウィンドウで、[Utilities] をクリックし、[Map Network Drive] をクリックします。
2. バックアップイメージファイルが保存されているコンピュータのパスを使用してネットワークドライブをマッピングします (構文 - ¥¥ネットワークコンピュータ名 ¥¥共有名、または ¥¥IP アドレス ¥¥共有名) 。

これで、このドライブマッピングを参照し、復元に使用するバックアップイメージファイルを選択することができます。

PQREの実行時に静的IPアドレスを取得する方法

ネットワークドライブ/共有に存在するバックアップイメージを復元するとき、ドライブがマッピングできなかったり、ネットワーク上のドライブ/共有が参照できない場合(使用できるDHCPサービスが存在しないため)、PQREを実行しているコンピュータに一意的な静的IPアドレスを割り当てることができます。そうすれば、ネットワークドライブ/共有にマッピングすることができます。

1. PQREを起動したときに、使用できるDHCPサービスが存在しない場合は、[Network Configurariion]ダイアログが自動的に表示されます。このダイアログが表示されないときは、[Utilities]をクリックし、[Configure IP Address]をクリックします。
2. リストボックスで[IP #1]を選択し、[Modify]をクリックします。
3. 復元先のコンピュータのIPアドレスとサブネットマスクを指定します。指定するサブネットマスクがネットワークセグメントのサブネットマスクと一致していることを確認します。
4. [OK]をクリックして、メインメニューに戻ります。
5. [Utilities]をクリックし、[PING.EXE]をクリックします。
6. ネットワークセグメント上のping先のコンピュータのアドレスを指定します。このコンピュータは、通常は、復元するバックアップイメージが保存されているコンピュータです。

アドレス方法	説明
コンピュータ名	ドメインおよびワークグループを使用してコンピュータ名を解決する場合は、コンピュータ名(構文 - computersb)を指定します。
コンピュータ名およびドメイン	Active Directoryドメインを使用してコンピュータ名を解決する場合は、コンピュータ名およびドメイン(構文 - computersb.netjapan.co.jp)を指定します。
IPアドレス	使用できる名前解決が同セグメントにない場合は、IPアドレス(構文 - 12.345.678.9)を指定します。

7. [OK]をクリックします。

アドレス方法としてコンピュータ名またはコンピュータ名とドメインを指定した場合は(上の表を参照)、pingしたコンピュータから返されたIPアドレスを記録しておきます。

IPアドレスが返されなかった場合は、復元するバックアップイメージが保存されているストレージコンピュータのところに行きます。DOSのプロンプトで「ipconfig/all」と入力し、Enterキーを押します。表示されたIPアドレスを書き留めます。PQREを実行しているコンピュータに戻り、書き留めたIPアドレスを使用してPING.EXEを実行します。

ストレージコンピュータとの接続が確立したら、[Map Network Drive]を使用して、バックアップイメージの保存先にドライブをマッピングすることができます。

8. PQREのメインウィンドウで、[Utilities]をクリックし、[Map Network Drive]をクリックします。
 9. [Drive] ドロップダウンリストでドライブ文字を選択します。
 10. [Folder] テキストフィールドに、ストレージコンピュータのIPアドレスとバックアップイメージ保存先の共有のIPアドレスを入力します（構文 - ¥¥IPアドレス¥共有名¥）。
 11. [Connect using a [different user name]] をクリックします。
 12. [User name] テキストフィールドに、IPアドレスとユーザー名を入力します（構文 - IPアドレス¥ユーザー名）。
 13. [Password] テキストフィールドに、このユーザー名用のパスワードを入力します。
 14. [OK] をクリックします。
- これで、ネットワークドライブをマッピングすることができます。

DHCP が存在しないときの遅延適用の使用

PQRE ではコンピュータ名の名前解決に制限があるため、DHCP やDNS サービスを使用できない環境でPQREを使用することはお奨めできません。したがって、バックアップイメージがネットワークドライブに存在し、DHCP サービスが使用できないときは、コンピュータ名を解決することができないため、[遅延適用](#)を使用することはできません。

この問題を解決するには、遅延適用を使用せずに直接PQREで起動し、バックアップイメージを復元します。

第 6 章

ドライブのコピー

- [概要](#)
- [ドライブのコピー機能の使用準備](#)
- [ハードディスクから別のハードディスクへのコピー](#)
- [コピー終了後のコンピュータの再起動準備](#)

概要

新しいハードディスクに、オペレーティングシステム、アプリケーション、およびデータをコピーすることができます。

ドライブのコピー機能は、容量のより大きいハードディスクにアップグレードしたり、現在のハードディスクの内容をイメージ化せずにコピーしておく場合に利用します。

重要! ドライブのコピー機能は、コピー元のハードディスクと同容量、またはそれ以上のディスクに対して行ってください。パーティション単位のコピーを行う場合は、コピー元のパーティションサイズと同じか、それ以上の領域に対して行ってください。サイズを縮小してのコピーは行えません。

ドライブのコピー機能の使用準備

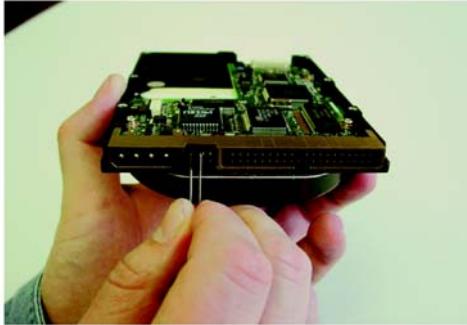
ドライブのコピーを実行するには、ハードウェアを正しく設定しておく必要があります。

1. コンピュータを準備します。ドライブのインストールに関する製造元の説明書を用意してください。コンピュータをシャットダウンし、電源コードを外します。コンピュータの接地している金属部分に触れて、静電気を放電してから作業を行ってください。コンピュータのカバーを外します。



2. ハードディスクのジャンパ設定を変更して新しいハードディスクをスレーブドライブに設定します。ジャンパでケーブルセレクトに設定した場合、新しいハードディスクをスレーブドライブとなるよう接続します。

ジャンパ設定について不明な点がある場合にはハードディスクメーカーに確認してください。

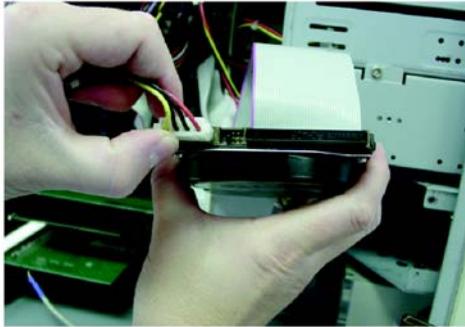


3. 新しいハードディスクを取り付けます。ケーブルの色の付いた線の側がマザーボードのI/O ピンの位置と揃うようにケーブルを接続します。つまり、マザーボードの Pin1 または 1 とマークされた位置に色の付いた線が来るように接続します。ケーブルのもう一方の端をハードディスクの背面に接続します。ここでも、色の付いた線の側を Pin1 の位置に合わせるように接続します。通常、Pin1 は電源コネクタに一番近い側にあります。

マザーボードやハードディスクのケーブルを差し込む位置が不明な場合には、コンピュータメーカー（自作の場合には、マザーボードメーカー）、ハードディスクメーカーに確認してください。



4. 電源ケーブルのコネクタを新しいハードディスクに差し込みます。電源ケーブルは決まった向きでしか接続できないようになっています。無理に挿入しないでください。



5. 製造元の説明書またはベイの要件に従って、ハードディスクをベイに固定します。



6. 新しいハードディスクを認識するように BIOS を変更します。BIOS の設定を変更するには、コンピュータを起動したあとの画面に注目してください。表示される説明に従って、Del キー、F1 キー、F2 キー、または F10 キーを押すと BIOS の設定メニューを表示することができます。通常はマスタードライブおよびスレーブドライブとも Auto Detect (Auto) を選択します。BIOS の変更を保存して終了します。コンピュータが自動的に再起動します。

ハードディスクから別のハードディスクへのコピー

新しいハードディスクの取り付けが完了し、古いハードディスクの内容をコピーする準備が整いました。

1. ドライブのコピーウィザードを実行します。

ウィザードで、コピー元ドライブ、コピー先ドライブ、および別のドライブヘデータをコピーする際のオプションを正しく選択します。

コピー終了後のコンピュータの再起動準備

古いハードディスクの内容を新しいハードディスクにコピーしたら、次の操作を実行します。

- 古いハードディスクは、取り外すかスレーブドライブとして保持します。
- コンピュータを再起動する前に、新しいハードディスクをマスターにするようにジャンパを設定します。

これらのタスクの詳細については、[60 ページの「ドライブのコピー機能の使用準備」](#)を参照してください。

付録 A

トラブルシューティング

- [インストールのトラブルシューティング](#)
- [バックアップイメージのスケジューリングの作成](#)
- [V2i Protector サービスのステータスの確認](#)
- [PQRE のトラブルシューティング](#)
- [エラーメッセージ](#)
- [Windows 上のボリュームについてのヘルプ](#)
- [V2i Protector Agent と Windows のサービスツール](#)
- [PQRE でサポートされているストレージデバイス](#)
- [PQRE でサポートされている NIC ドライバ](#)

インストールのトラブルシューティング

V2i Protector 実行時に、「指定したパスにダイナミックリンクライブラリ mscoree.dll が見つからない」または「V2iConsole.exe アプリケーションエラー」というエラーが表示されます。

このエラーは、コンソールをインストールしたコンピュータに Microsoft .NET Framework がインストールされていない場合に表示されます。この問題を解決するには、一度 V2i Protector 2.0 をアンインストールし、再起動後に再インストールします。その際、画面に表示されるメッセージに従って、.NET Framework をインストールするか、Windows UPDATE などを利用して、.NET Framework をインストールしてください。

コンピュータ上の V2i Protector 用のアカウント名とパスワードを変更する手順を教えてください。

重要! この操作はインストール時に指定したコンピュータ名(ドメイン名)・管理者権限のあるユーザー名、パスワードを変更した場合や、修正が必要な場合に実行します。

1. Windows のデスクトップで[スタート]をクリックします。
2. [ファイル名を指定して実行]をクリックし、[名前]テキストフィールドに「services.msc」と入力して[OK]をクリックします。
Microsoft Windows のサービスコンソールが開きます。
3. [名前]カラムで[V2i Protector]をダブルクリックします。
4. [ログオン]タブをクリックします。
5. アカウント名とパスワードを変更します。

バックアップイメージのスケジューリングの作成

バックアップジョブを作成したのですが、しばらくするとバックアップが作成されなくなりました。どうしてでしょうか。

作成するバックアップイメージ数を指定し、指定した数のバックアップイメージを作成した後は、古いバックアップイメージから順番に削除するようにすることができます。このオプションを使用するときは、指定した数よりも1つ多いバックアップイメージを保存できる空き容量がハードディスクにあることを確認してください。ハードディスクの空き容量が不足すると、新しいバックアップイメージは作成されません。この問題を解決するには、作成するバックアップイメージの数を減らすか、指定した数のバックアップイメージを保存できるようにハードディスクの空き容量を増やしてください。

V2i Protector サービスのステータスの確認

1. Windows管理コンソールのサービスウィンドウを開き、[名前]カラムで[V2i Protector]を選択します。

V2i Protectorの[状態]カラムの値が「開始」であるかどうかをチェックします（画面をスクロールする必要があるかもしれません）。

2. このサービスを停止するには、[名前]カラムで[V2i Protector]を右クリックし、[停止]をクリックします。

このサービスを開始するには、[名前]カラムで[V2i Protector]を右クリックし、[開始]をクリックします。

PQRE のトラブルシューティング

CD から起動できません。

PowerQuest Recovery Environment (PQRE) は、PowerQuest V2i Protector の CD から起動する必要があります。

1. 使用するコンピュータを起動します。
2. コンピュータの起動中に、画面下部に表示されるメッセージで BIOS へのアクセス方法を確認してください。通常は、Del キー、F1 キー、F2 キー、または F10 キーなどを押すと、BIOS セットアップメニューを開くことができます。
3. BIOS 画面で、Boot、またはそれに類似したメニューを選択します。
起動デバイスが一覧表示されます。
4. CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブを、最初の起動デバイスとして指定します。
5. BIOS の変更を保存して終了します。

PowerQuest V2i Protector の CD を CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブに挿入してコンピュータを起動すると、任意のキーを押して CD から起動するように画面に表示されます。キーを押さない場合、コンピュータは 2 番目の起動デバイスとして BIOS で設定されているデバイスから起動を試みます。このメッセージの表示時間は短いので、コンピュータの起動時には画面を注意して見てください（通常 5 秒です）。

6. 任意のキーを押すと PQRE が起動します。

バックアップが保存されているローカルドライブにアクセスできません。

PQREの起動時には、バックアップが保存されているストレージデバイス用のドライバをロードしなければならない場合があります。

1. PowerQuest V2i ProtectorのCDを挿入してコンピュータを再起動します。
2. " Press any key to boot from CD.."と画面に表示されたら、直ちにF6キーを押します。
別のキーを押すと、特定のドライバを指定してロードすることができません。

F6キーを押すと、www.microsoft.com/windows/catalogに一覧表示されているほとんどのSCSIデバイス用のストレージドライバを追加することができます。本製品のリリース時におけるサポート対象ストレージデバイスのリストの詳細については、[83ページの「PQREでサポートされているストレージデバイス」](#)を参照してください。

Windowsで使用するSCSIアダプタ、CDドライブ、または特殊なコントローラを追加指定するように画面に表示された場合、または大容量ストレージデバイスの製造元から供給されたデバイスサポートディスクがある場合はSキーを押します。

使用可能なドライバがデバイスの製造元から供給されず、PQREに含まれていない場合、そのドライブを使用することはできません。

バックアップが保存されているネットワーク上のコンピュータにアクセスできません。

PQREがお使いのコンピュータのNICをサポートしていない場合、別のNICを利用してPQREを実行するのが最も簡単な解決策です。

本製品のリリース時点でサポート対象となっているNICのリストについては、[84ページの「PQREでサポートされているNICドライバ」](#)を参照してください。

エラーメッセージ

Backup Image Browser

COM ライブラリを初期化できません。

COM サブシステムを初期化できませんでした。リソースが不足しているか、DLL が破損しているのが原因です。システムを再起動してリソースを解放してください。

V2i Protector マウントマネージャにインスタンスを割り当てられません。

PowerQuest マウントマネージャにリソースを割り当てることができませんでした。このエラーは、通常、本製品を部分的にインストールしたか、一部の COM オブジェクトが不明であったり正しく登録されていない場合に通知されます。この状態を修復するには、本製品を再インストールしてください。

ドライブ情報を取得できません。

PowerQuest マウントマネージャが、マウントされたバックアップイメージとしてドライブを認識しませんでした。このエラーは、通常、別のプロセスがドライブをマウント解除しようとしている場合に通知されます。ドライブが破損している場合にも、このエラーが通知されます。すべての PowerQuest 製品を終了してから、マウント解除を再度試してください。引き続きエラーが通知される場合は、コンピュータを再起動してください。

ドライブをマウント解除できません。ドライブが別のプロセスでロックされていないか確認してください。

PowerQuest マウントマネージャが、ドライブをマウント解除できませんでした。このエラーを解決するには、ドライブで開いているファイルがないこと、および別のアプリケーションによってドライブがロック（使用）されていないことを確認してください。

一般的なエラーメッセージ

エラー EC8A0001：エンジンが初期化されていません。

このエラーは、QLogic ドライブのアップデートされたファームウェアが、PowerQuest V2i Protector の CD の QLogic ドライバと競合している場合に通知されます。SCSI が PowerQuest V2i Protector の CD の特定のドライバと競合している場合にも、このエラーが発生します。

ドライバを手動でロードしてください。手順の詳細については、[68 ページの「バックアップが保存されているローカルドライブにアクセスできません。」](#)を参照してください。

引き続きエラーが通知される場合は、問題解決のために SMEdump ファイル、partinfor ファイル、システム情報ファイルやログファイルが必要になる場合もあります。

エラー E0BC000A

変更を適用するための保存された初期状態は現在のシステム状態と一致しません。

エラー E0B000C : オブジェクト BasicDisk SME~Computer~BgM896453 は保存された状態に存在しますが、現在の状態とは互換性がありません。

エラー E0BC000C : オブジェクト
MediaCommon:Sme~computer~Pd1~

M896453 は保存された状態に存在しますが、現在の状態とは互換性がありません。

上記の2つのエラーメッセージは、シリアル番号が変更された場合に発生します。ドライブ情報の変更があった場合にも、このエラーが発生します。

Windows 上で復元の設定を行い、PowerQuest V2i Protector のCD から再起動した場合、Windows のコンソールから復元を行わずに、PowerQuest V2i Protector のCD の System Restore ウィザードを実行してください。ドライブ情報が更新されている可能性があります。[PowerQuest Recovery Environment \(PQRE \)](#) で System Restore ウィザードを実行しても引き続きエラーが発生するときは、弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

E0710007 仮想ボリュームイメージを作成できません。

SMEdump ファイル、partinfor ファイル、システム情報ファイルについてテクニカルサポートにご連絡ください。ログファイルが必要になる場合もあります。

WinBOM error when booting from PQRE

これは NIC (Network Interface Card) ドライバがロードされないことによる問題です。原因を分析するためには、Windows のシステム情報ファイルをデータとして作成しテクニカルサポートにご連絡ください。

使用している NIC がサポートされていない場合はネットワーク共有フォルダをイメージの保存先として使用し、PQRE から復元することはできません。

The month and year are flopped on some international machines

これは一部の国際サーバーにおける問題です。PQH ファイルをテクニカルサポートにお送りください。

Windows 上のボリュームについてのヘルプ

ベーシックボリュームおよびダイナミックボリュームの詳細については、Microsoft ディスクの管理のヘルプファイル (DISKMGMT.CHM) を参照してください。Microsoft のヘルプファイルが保存されている場所は、Windows のインストールフォルダにある HELP フォルダです。

V2i Protector Agent と Windows のサービスツール

注意： V2i Protector Desktop 版や Server 版のインストールされているシステムを、V2i Protector Server 版の管理コンソールからバックアップや復元を実行することができます。その時、V2i Protector のサービス (Agent) が開始されているだけで、コンソールを起動する必要はありません。Agent とは、V2i Protector サービスのことです。

V2i Protector Agent の起動、停止、パスワード設定、トラブルシューティングを行う必要がある場合は、Windows のサービスを使用します。Agent のコアエンジンは、バックグラウンドで実行される **サービスアプリケーション** です。サービスであるため、Agent には、固有のグラフィカルインターフェイスや Windows の [スタート] メニューから使用可能な項目は本来必要ありません。Agent は、目に見えない “エンジン” で、V2i Protector コンソールによって提供される情報を使用して、コンピュータ上で実際にバックアップイメージの作成と復元を実行します。V2i Protector Server 版と共に使用することにより、Agent はローカルコンピュータにインストールして使用することもできますし、リモートコンピュータにインストールしてネットワーク経由で使用することもできます。

サービスの Agent を確認することは、ソフトウェアの問題を解決するための非常に有益な手段となります。コンピュータで Agent が起動していないと、バックアップの作成と復元に不具合が生じます。

サービスを使用して、次の方法で Agent を管理することができます。

- ローカルおよびリモートコンピュータで Agent を起動、停止、および無効にする。[78 ページの「Agent サービスを開始、停止、または再開する」](#)を参照してください。
- Agent が使用するユーザー名とパスワードを設定する。[75 ページの「Agent の起動方法を設定する」](#)を参照してください。Agent へのアクセス権限を別のユーザーに付与するには、[23 ページの「コンピュータをバックアップする権限の設定」](#)を参照してください。
- Agent を起動できない場合に実行する回復操作を設定する。たとえば、Agent を自動的に再起動したり、コンピュータを再起動したりすることができます。ただし、Windows XP または Windows 2000 を実行しているコンピュータに限ります。[81 ページの「Agent を起動できないときの回復操作を設定する」](#)を参照してください。

サービスを開始する

Agent サービスを開始する方法は、いくつかあります。もっとも便利な方法を使用してください。

1. Windows のデスクトップで [スタート] メニューをクリックし、[設定]、[コントロール パネル]、[管理ツール] の順にポイントして、[サービス] をクリックします。

または、Windows のデスクトップで [スタート] メニューをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。[名前] テキストフィールドに「services.msc」と入力して、[OK] をクリックします。

Windows 2003 または Windows XP の場合は、[スタート]、[コントロール パネル]、[管理ツール] の順にポイントして、[サービス] をダブルクリックします。



2. [名前] カラムの下に [V2i Protector] (Agent の名前) が表示されるようになるまで、サービスのリストをスクロールします。状態が「開始」であるかどうかをチェックします。開始でない場合は、[78 ページの「Agent サービスを開始、停止、または再開する」](#)を参照してください。

リモートコンピュータでサービスを開始する

注意： この説明は MMC を応用して、Agent のコントロールを行うためのものであり、直接バックアップジョブを作成したり、実行したりするものではありません。

Microsoft 管理コンソール (MMC) を作成し、これを使用して、ネットワークドメインにあるコンピュータ上の V2i Protector Agent のサービスをリモート管理することができます。

リモートで管理できるのは、サービスの開始と停止のみです。また、完全なアクセス権がなければなりません。

1. Windows のデスクトップで [スタート] メニューをクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックします。
2. [名前] テキストフィールドに「mmc」と入力して、[OK] をクリックします。
3. 空の MMC が開きます。

4. (Windows 2000 の場合) [コンソール]、 [スナップインの追加と削除] の順にクリックします。
(Windows XP の場合) [ファイル]、 [スナップインの追加と削除] の順にクリックします。
5. [追加] をクリックします。
6. リストボックスで [サービス] を選択し、 [追加] をクリックします。
7. [別のコンピュータ]、 [参照] の順にクリックします。
8. (Windows 2000 の場合) 管理対象の Agent がインストールされているコンピュータを選択します。 [OK]、 [完了] の順にクリックします。
(Windows XP の場合) [詳細] をクリックし、 管理対象の Agent がインストールされているコンピュータを検索します。コンピュータを選択し、 [OK] を 2 回クリックしてから、 [完了] をクリックします。
9. Agent がインストールされている別なコンピュータを追加するには、手順 5 ~ 7 を繰り返します。サービスでコンピュータを追加する作業が完了したら、次の手順に進みます。
10. [閉じる] をクリックして、 [スタンドアロンスナップインの追加] ダイアログを閉じます。
11. [OK] をクリックして、 [スタンドアロンスナップインの追加] ダイアログを閉じます。
12. [スタンドアロンスナップインの追加] ダイアログに追加した各コンピュータが MMC に追加されています。
13. (Windows 2000 の場合) [コンソール]、 [上書き保存] の順にクリックします。
14. (Windows XP の場合) [ファイル]、 [上書き保存] の順にクリックします。
15. コンソールの内容を示すファイル名を指定して、 [上書き保存] をクリックします。
今後、このコンソールを使用して、リモートコンピュータにある V2i Protector Agent に関する問題のトラブルシューティングを行うことができます。

Agent (V2i Protector サービス) のデフォルト設定

注意： Agent (サービス) の状態を確認するためには、Microsoft Windows のサービスのコンソールから確認してください。

[スタート] から [ファイル名を指定して実行] を選び、「 services.msc 」と入力してください。

V2i Protector Agent をローカルに、またはリモートコンピュータにインストールすると、Agent は、“自動”として設定されます。“自動”とは、コンピュータの起動時やコンソールの開始時、または Agent が最初に呼び出されたときに、Agent が自動的に起動するということです。この設定を変更する必要はありません。

次の表には、V2i Protector Agent を正常に実行するために必要な 3 つのサービスが、デフォルトのスタートアップ設定とともに記載されています。これらのサービスがインストールされていること、および[スタートアップの種類]が[無効]に設定されていないことを確認してください。

サービス	スタートアップの種類
Event Log	自動
Logical Disk Manager (Windows NT 4.0 では、 このサービスはありません。)	自動
Remote Procedure Call (RPC)	自動

サービスの使用に関するヒント

サービスを使用する前に、
[イベント]タブを確認します。

特に Agent に関連する問題の原因を突き止めるには、コンソールの[詳細表示]にある[イベント]タブをまず確認します。多くの場合、[イベント]タブの最新のログエントリに、問題の原因に関する情報と解決の糸口があります。

ユーザーが手動操作を加えずに Agent が起動していることを確認します。

コンソールが起動すると、Agent が自動的に起動するように設定されています。これを検証するには、コンソールを開いて、Agent が起動されることを確認します。Agent が正常に起動している場合、コンソールの[タスク]にある[状態]領域は「準備完了」になります。

コンソールの[詳細表示]にある[イベント]タブをクリックして、最新のログエントリを参照することによっても、Agent が自動的に起動していることを確認できます。最新のログエントリに V2i Protector サービスが停止されているという記述がある場合は、[スタートアップの種類]が自動に設定されているかどうかを確認します。[75 ページの「Agent の起動方法を設定する」](#)を参照してください。[スタートアップの種類]が自動に設定されている場合は、Agent をもう一度起動してみてください。[78 ページの「Agent サービスを開始、停止、または再開する」](#)を参照してください。

Agentのデフォルト設定を変更するときは、注意します。

サービスのデフォルト設定を変更すると、サービスが正常に実行できなくなる場合があります。自動的に開始されるよう設定されているサービスの[スタートアップの種類]および[ログオン]設定を変更する際は、特に注意を払ってください。

Agentのデフォルトプロパティを変更すると、コンソールが正常に実行できなくなる場合があります。特に、Agentの[スタートアップの種類]および[ログオン]のデフォルト設定を変更する際は注意が必要です。Agentは、コンソールの開始時に自動的に起動し、通常は自動的にログオンするよう設定されているためです。

サーバーサービスを停止または一時停止するときは、接続されたユーザーに通知します。

サーバーサービスを停止すると、ネットワークを通じてそのコンピュータに接続しているすべてのユーザーが切断されます。また、影響を受けるコンピュータをリモートで管理することはできません。そのため、サーバーサービスをローカルに開始する必要があります。サーバーサービスを一時停止すると、コンピュータに新たに接続できるのは、ローカルコンピュータの Administrators および Server Operators グループのユーザーのみです。

サーバーサービスを停止した場合、コンピュータが再起動されると、サーバーサービスが自動的に開始されます。ただし、そのプロパティの[全般]タブにある[スタートアップの種類]ドロップダウンリストで、[手動]または[無効]をクリックすると、コンピュータを再起動しても、サーバーサービスは自動的に開始されません。

[サービス]でのAgentのプロパティの設定

Agentの起動方法を設定する

Agentの起動方法を設定するには、管理者または Administrators グループのメンバーとしてログオンし、次の手順を完了する必要があります。コンピュータがネットワークに接続されている場合、ネットワークポリシーの設定によりこの手順を完了できないこともあります。

V2i Protector Agent は、インストールのときに指定されたユーザー名とパスワードを使用して自動的に起動するよう設定されます。何らかの理由で、Agentが自動的に起動しないか、Agentへのログオン権限を変更する必要がある場合、次の手順を使用して、起動方法を変更することができます。

重要！ Agent の設定を変更すると、コンソールが正常に実行できなくなる場合があります。特に、Agent の [スタートアップの種類] および [ログオン] のデフォルト設定を変更する際は注意が必要です。Agent は、コンソールの開始時に自動的に起動し、ログオンするよう設定されているためです。

1. [サービス] ウィンドウで (72 ページの「サービスを開始する」または72 ページの「リモートコンピュータでサービスを開始する」を参照してください) [名前] カラムの [V2i Protector] を選択します。
2. [操作]、[プロパティ] の順にクリックします。
3. [全般] タブをクリックします。
4. [スタートアップの種類] ドロップダウンリストで、コンソールの開始時にどのような方法で Agent を起動するかを選択します。

オプション	説明
自動	コンソールの開始時、Agent が自動的に起動するよう指定します。これはデフォルトです。 重要！ Agent の [スタートアップの種類] は、常に [自動] に設定されている必要があります。[手動] または [無効] を選択する必要はありません。
手動	ユーザー自身が Agent を起動するよう指定します。 このオプションを選択した場合、コンソールを起動しても Agent は起動しません。
無効	このオプションを選択すると、コンソールを起動したときに Agent が起動しないだけでなく、ユーザーが手動で起動することもできなくなります。バックアップの作成や復元はできません。

5. Agent のログオン時に使用するユーザーアカウントを変更するには (ユーザーアカウントとパスワードは、ソフトウェアのインストール時に指定されています) [ログオン] タブをクリックします。

6. 次のオプションのいずれかを実行します。

オプション	説明
Agentがユーザーアカウントではなく、ローカルシステムアカウントにログオンするよう指定するには	<p>[ローカル システム アカウント]をクリックします。これは、Agentのデフォルトです。</p> <p>(オプション)Agentの起動時にログオンするすべてのアカウントが使用可能なデスクトップに、Agentがユーザーインターフェイスを用意するようにするには、[デスクトップとの対話を許可する]を選択します。このオプションが使用可能なのは、[ローカル システム アカウント]をクリックした場合、またはAgentがデスクトップと対話するよう設定されている場合のみです。そのように設定されていない場合は、このオプションを選択しないでください。</p>
Agentがローカルサービスアカウントを使用するよう指定するには	<p>[アカウント]をクリックし、「NT AUTHORITY¥LocalService」と入力します。</p> <p>これにより、Agentにログオンアカウントが割り当てられます。Agentは、デフォルトでローカルシステムアカウントにログオンしますが、特定のユーザーアカウントにログオンするようAgentを設定することができます。こうすると、ユーザーは、保護されているファイルやフォルダといった他のリソースにアクセスできるようになります。</p>
AgentがNetworkServiceアカウントを使用するよう指定するには	<p>[アカウント]をクリックし、「NT AUTHORITY¥NetworkService」と入力します。</p> <p>これにより、Agentにログオンアカウントが割り当てられます。Agentは、デフォルトでローカルシステムアカウントにログオンしますが、特定のユーザーアカウントにログオンするようAgentを設定することができます。こうすると、ユーザーは、オペレーティングシステムによって保護されているファイルやフォルダといった他のリソースにアクセスできるようになります。</p>
別のアカウントを指定するには	<p>[アカウント]をクリックします。[参照]をクリックして、[ユーザーの選択]ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Agentがログオンに使用するユーザーアカウントを選択することができます。[OK]をクリックして、[ログオン]タブに戻ります。</p>

7. [パスワード]テキストフィールドにユーザーアカウントのパスワードを入力し、[パスワードの確認入力]テキストフィールドにパスワードをもう一度入力します。
8. [OK]をクリックします。

Agent サービスを開始、停止、または再開する

Agent サービスを開始、停止、または再開するには、管理者または Administrators グループのメンバとしてログオンする必要があります。コンピュータがネットワークに接続されている場合、ネットワークポリシー設定によりこのタスクを完了できないこともあります。

コンソールがコンピュータ上の Agent に接続できない場合、または[タスク]の[再接続]をクリックしても、コンソールから再接続できない場合に、このタスクを使用します。

1. [サービス]ウィンドウで (72 ページの「サービスを開始する」または72 ページの「リモートコンピュータでサービスを開始する」を参照してください)、[名前]カラムの[V2i Protector]を選択します。
2. [操作]、[開始]、[停止]、[再起動]の順にクリックします。

重要! Agent サービスを停止すると、コンソールからバックアップを作成したり復元することはできなくなります。

Agent サービスを停止してから、コンソールを開始すると、Agent が自動的に起動します。そして、コンソールの[タスク]にある[状態]は「準備完了」になり、タスクを実行する準備が整います。

コンソールの開始中に Agent サービスを停止すると、エラーメッセージが表示され、コンソールが Agent から切断されます。ほとんどの場合、コンソールの[タスク]で[再接続]をクリックして、Agent を再起動できます。

重要! Agent の設定を変更すると、コンソールが正常に実行できなくなる場合があります。特に、Agent の[スタートアップの種類]および[ログオン]のデフォルト設定を変更する際は注意が必要です。Agent は、コンソールの開始時に自動的に起動し、ログオンするよう設定されているためです。

サービスのスタートアップパラメータを設定するには、サービスを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。そして、Start パラメータにパラメータを入力してから、[開始]をクリックします。これらの設定は一度だけ使用され、保存されません。円記号 (¥) は、エスケープ文字として扱われます。パラメータの円記号に対しては、それぞれ 2 つの円記号を入力してください。

Agentを実行するアカウントを選択する

サービスがどのアカウントでログオンするかを制御するには、[ログオン]タブを使用します。

インストール時にユーザー名、ドメイン名、およびパスワードを入力したものの、コンソールを開くとエラーが発生し、コンピュータのドライブが表示されない場合、この設定を確認します。下記のタスクが役に立つでしょう。

重要： Agentの設定を変更すると、コンソールが正常に実行できなくなる場合があります。特に、Agentの[スタートアップの種類]および[ログオン]のデフォルト設定を変更する際は注意が必要です。Agentは、コンソールの開始時に自動的に起動し、ログオンするよう設定されているためです。

1. [サービス]ウィンドウで ([72ページの「サービスを開始する」](#)または[72ページの「リモートコンピュータでサービスを開始する」](#)を参照してください)、[名前]カラムの[V2i Protector]を選択します。
2. [操作]、[プロパティ]の順にクリックし、[ログオン]タブをクリックします。
3. 次のオプションのいずれかを実行します。

オプション	説明
ユーザーアカウントではなく、ローカルシステムアカウントでAgentにログオンするよう設定するには	[ローカル システム アカウント]をクリックします。これは、Agentのデフォルトです。 (オプション)Agentの起動時にログオンするすべてのアカウントが使用可能なデスクトップに、Agentがユーザーインターフェイスを用意するようにするには、[デスクトップとの対話を許可する]を選択します。このオプションが使用可能なのは、[ローカル システム アカウント]をクリックした場合、またはAgentがデスクトップと対話するよう設定されている場合のみです。そのように設定されていない場合は、このオプションを選択しないでください。
LocalService アカウントでAgentにログオンするよう設定するには	[アカウント]をクリックし、「NT AUTHORITY¥LocalService」と入力します。 これにより、Agentにログオンアカウントが割り当てられます。Agentは、デフォルトでローカルシステムアカウントにログオンしますが、特定のユーザーアカウントにログオンするようAgentを設定することができます。こうすると、ユーザーは、保護されているファイルやフォルダといった他のリソースにアクセスできるようになります。

オプション	説明
AgentがNetworkServiceアカウントを使用するよう指定するには	[アカウント]をクリックし、「NT AUTHORITY¥NetworkService」と入力します。
	これにより、Agentにログオンアカウントが割り当てられます。Agentは、デフォルトでローカルシステムアカウントにログオンしますが、特定のユーザーアカウントにログオンするようAgentを設定することができます。こうすると、ユーザーは、オペレーティングシステムによって保護されているファイルやフォルダといった他のリソースにアクセスできるようになります。
別のアカウントを指定するには	[アカウント]をクリックします。[参照]をクリックして、[ユーザーの選択]ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで、Agentがログオンに使用するユーザーアカウントを選択することができます。[OK]をクリックして、[ログオン]タブに戻ります。

4. [パスワード]テキストフィールドにユーザーアカウントのパスワードを入力し、[パスワードの確認入力]テキストフィールドにパスワードをもう一度入力します。

5. [OK]をクリックします。

ユーザーアカウントは、Agent サービスにログオンするため、明確に設定する必要があります。ユーザーアカウントが正しく設定されていることを確認するには、[スタート]、[設定]、[コントロールパネル]、[管理ツール]、[コンピュータの管理]の順にポイントして、[ローカル ユーザーとグループ]コンソールを右クリックします。[プロパティ]ダイアログボックスの[全般]タブで、[パスワードを無期限にする]チェックボックスがオンになっていることを確認します。[所属するグループ]タブをクリックして、ユーザーが適切なグループのメンバであることを確認します。“ローカル ユーザーとグループ”の詳細については、Microsoftの“ローカル ユーザーとグループ”のヘルプを参照してください。

サービスとしてログオンする権限を持たないアカウントを選択した場合、サービスによって、管理しているコンピュータ上の該当するアカウントに適切な権限が自動的に付与されます。

ハードウェアプロファイルに対して Agent を有効または無効にする

[ログオン]タブには、ハードウェアプロファイルの一覧が表示されます。スタートアップ時、この一覧からプロファイルを選択し、有効にするか無効にするかを指定することができます。Agent は、複数のプロファイルに対して有効または無効にすることができます。

[サービス]の[サービス]カラムに「有効」が表示されている場合、関連するハードウェアプロファイルを使用してシステムを起動すると、Agent が有効になります。

Windows のコントロールパネルにある[システム]を使用して、ハードウェアプロファイルを作成し、それらの優先順位を設定することができます。

重要！ Agent の設定を変更すると、コンソールが正常に実行できなくなる場合があります。特に、Agent の[スタートアップの種類]および[ログオン]のデフォルト設定を変更する際は注意が必要です。Agent は、コンソールの開始時に自動的に起動し、ログオンするよう設定されているためです。

1. [サービス]ウィンドウで ([72 ページの「サービスを開始する」](#) または [72 ページの「リモートコンピュータでサービスを開始する」](#) を参照してください) [名前]カラムの[V2i Protector]を選択します。
2. [操作]、[プロパティ]の順にクリックし、[ログオン]タブをクリックします。
3. 設定するハードウェアプロファイルをクリックします。
4. [有効]または[無効]をクリックして、[OK]をクリックします。

特定のハードウェアプロファイルに対して Agent を無効にすると、このハードウェアプロファイル設定は、[全般]タブにある Agent の[スタートアップの種類]設定をオーバーライドします。

Agent を起動できないときの回復操作を設定する

Agent を起動できない場合のコンピュータの応答を指定することができます。回復操作は、Windows 2000 または Windows XP を実行しているターゲットコンピュータでのみ使用可能です。

1. [サービス]ウィンドウで ([72 ページの「サービスを開始する」](#) または [72 ページの「リモートコンピュータでサービスを開始する」](#) を参照してください) [名前]カラムの[V2i Protector]を選択します。
2. [操作]、[プロパティ]の順にクリックし、[回復]タブをクリックします。
3. [最初のエラー]、[次のエラー]、および[その後のエラー]で、必要な操作を選択します。

[サービスを再起動する]を選択した場合、何分経過したらサービスの再開を試行するかを指定できます。

3つのエラードロップダウンリストのいずれかで[プログラムの実行]を選択した場合、ユーザーの入力を必要とするプログラムやスクリプトを指定しないでください。

[コンピュータを再起動する]を選択した場合、[コンピュータの再起動のオプション]をクリックして、コンピュータを再起動するまでの待機時間を指定することができます。コンピュータを再起動する前に、リモートユーザーに表示するメッセージを作成することもできます。

4. [エラー カウントのリセット]テキストフィールドに、エラーカウントをリセットする前にAgentが正常に実行される日数を指定します。

エラーカウントがゼロにリセットされると、次のエラーによって、最初の復元試行で設定されている操作が実行されます。

あるエラーから次のエラーまでの間、Agentが数週間正常に実行されるようにしたい場合は、大きな数字を指定してください。

5. [OK]をクリックします。

Agentの依存関係を表示する

Agentは他のサービスに依存します。システムコンポーネントが停止しているか、正常に実行されていない場合、依存関係にあるサービスが影響を受ける可能性があります。

1. [サービス]ウィンドウで(72ページの「サービスを開始する」または72ページの「リモートコンピュータでサービスを開始する」を参照してください)、[名前]カラムの[V2i Protector]を選択します。
2. [操作]、[プロパティ]の順にクリックし、[依存関係]タブをクリックします。

[依存関係]タブの上のリストボックスには、Agentを正常に実行するために必要なサービスが表示されます。下のリストボックスには、Agentを正常に実行するために必要なサービスは含まれていません。

PQRE でサポートされているストレージデバイス

Adaptec AHA-151X/AHA-152X/AIC-6X60 SCSI Adapter
Adaptec AHA-154X/AHA-164X SCSI Host Adapter
Adaptec AHA-294X/AHA-394X/AIC-78XX SCSI Controller
Adaptec AHA-294XU2/AIC-7890 SCSI Controller
Adaptec AIC-789X/AHA-3960 Ultra160 PCI SCSI Card
Agilent HHBA-510x PCI Fibre Channel Controller
Adaptec 2000S/3000S Ultra160 SCSI RAID Controller
Advansys 3550 Ultra Wide SCSI Host Adapter
Advansys ABP460 PCMCIA SCSI Host Adapter
Advansys ABP480 CardBus SCSI Host Adapter
Advansys SCSI Host Adapter
AMD PCI SCSI Controller/Ethernet Adapter
AMI MegaRaid RAID Controller
Compaq Drive Array
Compaq Fibre Channel Host Controller
Compaq Smart Array Controller
Compaq Smart Array 5300 Controller
Emulex LP6000 Fibre Channel Host Adapter
IBM Portable PCMCIA CD-ROM Drive
IBM ServeRAID Adapter
IBM ServeRAID Adapter
Intelligent I/O Controller
IDE CD-ROM (ATAPI 1.2)/PCI IDE Controller
CardBus/PCMCIA IDE Miniport Driver
Initio Ultra SCSI Host Adapter
M-Systems Flash Disk Adapter
Mylex EXR2000,3000/AR160,170,352 Raid Controller
Mylex DAC960/Digital SWXCR-Ex Raid Controller
Promise Technology Inc. Ultra IDE Controller
HPT370 UDMA/ATA100 RAID Controller
QLogic ISP 1240 SCSI Host Adapter
QLogic PCI SCSI Host Adapter
Qlogic QLA1080, 64 bit PCI LVD SCSI HBA
Qlogic QLA1280, 64 bit PCI LVD SCSI HBA
QLogic QLA12160, 64 bit PCI DUAL 160M SCSI HBA
QLogic QLA2000/QLA2100 PCI Fibre Channel Adapter
QLogic QLA2200 PCI Fibre Channel Adapter
QLogic QLA2300 PCI Fibre Channel Adapter
LSI Logic C896 PCI SCSI Host Adapter
LSI Logic C1010 PCI SCSI Host Adapter
LSI Logic C8100 PCI SCSI Host Adapter
LSI Logic C8xx PCI SCSI Host Adapter
LSI Logic PCI Fibre Channel Host Adapter

Hewlett Packard NetRAID-4M RAID Controller
Dell PERC 2/3 RAID Controller
Dell PERC 2/3 RAID Controller (Gatling)
Emulex LightPulse PCI Fibre Channel HBA
Emulex LightPulse PCI Fibre Channel HBA (ドライバ付属)
LSI Logic FC909 Fibre Channel Adapter
LSI Logic FC929 Fibre Channel Adapter
LSI Logic FC919 Fibre Channel Adapter
LSI Logic 1020/1030 Ultra320 SCSI Adapter
IBM ServeRAID 4Lx Device Driver

PQRE でサポートされている NIC ドライバ

1394 Net Adapter
3Com 10/100 LAN PCCard-Fast Ethernet
3Com 10/100 Mini PCI Ethernet Adapter
3Com 10/100 PCI NIC with 3XP (3CR990B-TX-M)
3Com 10/100 PCI NIC with 3XP (3CR990B-TX-M)
3Com 10/100 PCI NIC with 3XP (3CR990-TX-95)
3Com 10/100 PCI NIC with 3XP (3CR990-TX-97)
3Com 10/100 PCI Server NIC with 3XP (3C990BSVR)
3Com 10/100 PCI Server NIC with 3XP (3CR990B-TX-M)
3Com 10/100 PCI Server NIC with 3XP (3CR990SVR95)
3Com 10/100 PCI Server NIC with 3XP (3CR990SVR97)
3Com 3C450 Fast Ethernet Adapter
3Com 3C575TX-Based CardBus Fast Ethernet Adapter (Generic)
3Com 3C900B-COMBO Ethernet Adapter
3Com 3C900B-FL Ethernet Adapter
3Com 3C900B-TPC Ethernet Adapter
3Com 3C900B-TPO Ethernet Adapter
3Com 3C900COMBO-based Ethernet Adapter
3Com 3C900TPO-based Ethernet Adapter
3Com 3C905B-COMBO Fast Ethernet Adapter
3Com 3C905B-FX Fast Ethernet Adapter
3Com 3C905T4-based Ethernet Adapter
3Com 3C905TX-based Ethernet Adapter
3Com 3C918 Integrated Fast Ethernet Controller (3C905B-TX 互換)
3Com 3C920 Integrated Fast Ethernet Controller (3C905C-TX 互換)
3Com 3C985 Gigabit Ethernet Adapter
3Com 3CRWE62092A Wireless LAN PC Card
3Com 3CRWE737A AirConnect Wireless LAN PC Card
3Com 3CRWE777A AirConnect Wireless LAN PCI Card
3Com 3CSOHO Fast Ethernet Adapter
3Com 656C-Based PCCard Fast Ethernet Adapter

3Com EtherLink 10/100 PCI
 3Com EtherLink III ISAPNP Ethernet Adapter (Generic 3C509b)
 3Com EtherLink III LAN PC Card (3C589) (Ethernet)
 3Com EtherLink III LAN PC Card (3C589B/3C589C) (Ethernet)
 3Com EtherLink III LAN PC Card (3C589D) (Ethernet)
 3Com EtherLink Server 10/100 Dual Port A
 3Com EtherLink Server 10/100 Dual Port B
 3Com EtherLink Server 10/100 PCI (3C980B-TX)
 3Com EtherLink Server 10/100 PCI (3C980C-TXM)
 3Com EtherLink XL 10/100 PCI For Complete PC Management NIC (3C905C-TX)
 3Com EtherLink XL 10/100 PCI TX NIC (3C905B-TX)
 3Com Fast Etherlink III ISAPNP Ethernet Adapter (Generic 3C515Tx)
 3Com Fast Etherlink ISA 10/100BASE-T4 Network Card 3Com 3C574 TX Fast EtherLink PC Card
 3Com Fast Etherlink ISA 10/100BASE-TX Network Card (3C515-TX)
 3Com Fast EtherLink XL PC Card (3C575-TX)
 3Com FEM656-Based CardBus Fast Ethernet Adapter (Generic)
 3Com FEM656B-Based CardBus Fast Ethernet Adapter (Generic)
 3Com Megahertz (B) 10-100 LAN + 56K Modem (Ethernet)
 3Com Megahertz (BI) 10-100 LAN + 56K Modem (Ethernet)
 3Com Megahertz 10/100 LAN CardBus PC Card
 3Com Megahertz 10-100 LAN + 56K Modem (Ethernet)
 3Com Megahertz LAN + 56K Modem PC Card (B) (Ethernet Interface)
 3Com Megahertz LAN + 56K Modem PC Card (BI) (Ethernet Interface)
 3Com Megahertz LAN + 56K Modem PC Card (Ethernet Interface)
 3Com Megahertz LAN PC Card (589E) (Ethernet)
 3Com OfficeConnect 3CXSH572BT
 82557-based Integrated Ethernet with Wake on LAN
 82562EH based Phoneline Desktop Adapter
 82562EH based Phoneline Network Connection
 Accton EN1207D-TX PCI Fast Ethernet Adapter
 Accton EN1208 PCI Ethernet Adapter
 Accton Fast Ethernet-16 10/100 PC Card
 Acer ALN-330 10/100 PCI Fast Ethernet Adapter
 ACER NIC-559A PRO/100+ with Alert On LAN 2*
 ACER NIC-559A PRO/100+ with WOL
 ACER T62L158 PRO/100+ with Alert On LAN 2*
 AcerLAN ALN-201 PCI Ethernet Adapter
 AcerLAN ALN-325 10/100M Ethernet Adapter
 Adaptec ANA-62011/TX 64-bit PCI Fast Ethernet Adapter
 Adaptec ANA-62022 PCI Fast Ethernet Adapter
 Adaptec ANA-62044 PCI Fast Ethernet Adapter
 Adaptec ANA-69011 32-bit PCI Fast Ethernet Adapter
 Addtron AEF-380TXD PCI Fast Ethernet Adapter (21140-AF)
 ADMtek AN983 10/100 PCI Adapter
 ADS USB-Ethernet Adapter

ADS USB-Ethernet Adapter
ALi PCI Fast Ethernet Controller
Allied Telesis LA100-PCI-T Z1 LAN Adapter
Allied Telesyn AT-2450v4 PCI 10Mb Ethernet Adapter
AmbiCom 10/100 Ethernet CardBus PC Card
AmbiCom 16-Bit 10Mbps Ethernet PC Card (AMB8002/AMB8002T)
AMD PCNET Family Ethernet Adapter PCI
AMD PCNET Family Ethernet Adapter/ISA+ PnP
AMD PCnet-Home Based Network Adapter (Generic)
Amertek C110TX PCI Fast Ethernet Adapter
ASANTE USB To Ethernet Adapter
ATEN USB-Ethernet Adapter
ATI AT-2500TX PCI Fast Ethernet Adapter
BCM 4412 10/100 Ethernet Network Adapter
BreezeNET Wireless LAN PC Card
Broadcom Compatible USB Phonenumber Network Adapter
Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet (BCM5701)
Broadcom USB iLine10(TM) Network Adapter
BUFFALO LPC2-CLT Ethernet Adapter
Buffalo LPC2-T PCMCIA Ethernet Adapter
Buffalo LPC2-T PCMCIA Ethernet Adapter
Buffalo LPC2-T PCMCIA Ethernet Adapter
Buffalo LPC-T PCMCIA Ethernet Adapter
Buffalo WLI-PCM-L11 Wireless LAN Adapter
Cabletron DE500B PCI Fast Ethernet Adapter (21143-PC)
Cisco PC2500 DS Wireless PCMCIA LAN Adapter
Cisco PC3100 FH Wireless PCMCIA LAN Adapter
Cisco PC3500 FH Wireless PCMCIA LAN Adapter
Cisco PC4500 DS Wireless PCMCIA LAN Adapter
Cisco PC4800 DS Wireless PCI LAN Adapter
Cisco PC4800 DS Wireless PCMCIA LAN Adapter
Cisco Systems 340 Series PCI Wireless LAN Adapter
Cisco Systems 340 Series Wireless LAN Adapter
Cisco Systems 350 Series PCI Wireless LAN Adapter
Cisco Systems 350 Series Wireless LAN Adapter
Cisco Wireless ISAPNP LAN Adapter (Generic PC2500 DS)
Cisco Wireless ISAPNP LAN Adapter (Generic PC3100 FH)
Cisco Wireless ISAPNP LAN Adapter (Generic PC3500 FH)
Cisco Wireless ISAPNP LAN Adapter (Generic PC4500 DS)
Cisco Wireless ISAPNP LAN Adapter (Generic PC4800 DS)
CNet CN40BC PCMCIA Ethernet Card
CNet PRO200 PCI Fast Ethernet Adapter
CNet PRO200WL PCI Fast Ethernet Adapter
Compaq 10_100 MiniPCI Ethernet NIC
Compaq CPQTRND5 Token-Ring Adapter driver

Compaq Ethernet or Fast Ethernet NIC Driver
Compaq Ethernet PCMCIA LAN Card
Compaq Gigabit NIC Driver
Compaq Microcom 550 56k Modem + 10/100 Ethernet
Compaq NC3120 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3121 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3122 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3123 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3131 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3132 Fast Ethernet Module
Compaq NC3133 Fast Ethernet Module
Compaq NC3134 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3135 Fast Ethernet Upgrade Module
Compaq NC3160 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3161 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3162 Fast Ethernet NIC
Compaq NC3163 Fast Ethernet NIC
Compaq NC4621 PCI Token-Ring Adapter
Compaq NC6132 Gigabit Module
Compaq NC6133 Gigabit Module
Compaq NC6134 Gigabit NIC
Compaq NC6136 Gigabit Server Adapter
Compaq NC7131 Gigabit Server Adapter
Compaq NC7132 Gigabit Upgrade Module
Compaq Netelligent 10/100 PC Card
Compaq Netelligent 100 FDDI PCI DAS Fiber SC
Compaq Netelligent 100 FDDI PCI DAS UTP
Compaq Netelligent 100 FDDI PCI SAS Fiber MIC
Compaq Netelligent 100 FDDI PCI SAS Fiber SC
Compaq Netelligent 100 FDDI PCI SAS UTP
Compaq WL110 Wireless LAN PC Card
Compex FreedomLINE PCI Fast Ethernet Adapter (21143-PD)
Conexant RS7112 Network Adapter
DAVICOM 9102-Based PCI Fast Ethernet Adapter
DEC FDDIcontroller/EISA
DEC FDDIcontroller/PCI
Dell TrueMobile 1150 Series Wireless LAN Card
Dell TrueMobile 1150 Series Wireless LAN Mini PCI Card
Digi AccelePort RAS 4 Adapter
Digi AccelePort RAS 8 Adapter
Digi DataFire Prime Dual T1 ISA Adapter
Digi DataFire Prime E1 Adapter
Digi DataFire Prime T1 Adapter
Digi DataFire RAS 24 PT1 Adapter
Digi DataFire RAS 30 PE1 Adapter

Digi DataFire RAS 48 PT2 Adapter
Digi DataFire RAS 60 PE2 Adapter
Digi DataFire RAS BRI S/T Adapter
Digi DataFire RAS BRI U Adapter
D-Link DE-528 Ethernet PCI Adapter
D-Link DE-530+ PCI Ethernet Adapter
D-Link DE650 Ethernet Card PCMCIA
D-Link DE660 PCMCIA LAN adapter
D-Link DFE-500TX PCI Fast Ethernet Adapter (Rev B/C)
D-Link DFE-500TX PCI Fast Ethernet Adapter (Rev D)
D-Link DFE-500TX PCI Fast Ethernet Adapter (Rev E)
D-Link DFE-530TX PCI Fast Ethernet Adapter (rev.A)
D-Link DFE-530TX PCI Fast Ethernet Adapter (rev.A)
D-Link DFE-530TX PCI Fast Ethernet Adapter (rev.B)
D-Link DFE-530TX+ PCI Adapter
D-Link DFE-538TX 10/100 Adapter
D-Link DFE-550TX 10/100 Adapter
D-Link DFE-650 Fast Ethernet PC Card
D-Link DFE-650TXD Fast Ethernet PC Card
D-Link DFE-680TXD DirectPort CardBus
D-Link DHN-120 10Mb Home Phoneline USB Adapter
D-Link DHN-520 10Mb Home Phoneline Network Adapter
D-Link DL10050-based Ethernet Adapter
D-Link DMF-560TXD DirectPort PC Card (LAN)
Edimax EN-9130TX(A/L) PCI Fast Ethernet Adapter
Elecom Lanced LD-CDS PCMCIA Ethernet
ELSA Airlancer MC11 High Rate Wireless LAN PC Card
Endpoints USB Ethernet Adapter
Entrega USB Ethernet Adapter
Ericsson DSSS Wireless LAN PC Card
Ericsson DSSS Wireless LAN PCI Card
Ethernet 10/100 PC Card
Ethernet 10/100 PC Card + 56Modem
Farallon USB Home Phoneline Adapter
FE575C-3COM 10/100 LAN CardBus-Fast Ethernet
FEM656-3Com 10-100 LAN+56K Modem CardBus PC Card (Fast Ethernet)
FEM656B-3Com 10-100 LAN+56K Modem CardBus PC Card (Fast Ethernet)
FEM656C-3Com Global 10-100+56K CardBus PC Card-(Fast Ethernet)
ForeRunner PCA-200EPC ATM Adapter
ForeRunnerHE ATM Adapter
Fujitsu FMV-J182
Fujitsu FMV-J182A
Fujitsu ISAPNP Ethernet Adapter (Generic FMV18x)
Fujitsu Siemens Computers 82558-based Onboard Ethernet with WoL
Fujitsu Siemens Computers 82559-based Onboard Ethernet with WoL

Fujitsu Siemens Computers 82559-based Onboard Ethernet with WoL and AoL
Fujitsu Siemens Computers Server Onboard LAN with Intel 82558
Fujitsu Siemens Computers Server Onboard LAN with Intel 82558
Fujitsu Siemens Computers Server Onboard LAN with Intel 82559C
Genius LAN GF100TXRIII Fast Ethernet Adapter
Grey Cell 2200 Ethernet Card
HP EN1207D-TX PCI 10/100 Fast Ethernet Adapter
HP NetServer 10/100TX PCI LAN Adapter
IBM 10/100 Dual Port Server Adapter
IBM 10/100 EtherJet Integrated LAN with Alert on LAN
IBM 10/100 EtherJet PCI Adapter
IBM 10/100 EtherJet PCI Adapter with Alert on LAN
IBM 10/100 EtherJet PCI Management Adapter
IBM 10/100 EtherJet Secure Management Adapter
IBM 10/100 EtherJet Secure Management Adapter
IBM 16/4 Token-Ring Credit Card Adapter
IBM 16/4 Token-Ring PCI Adapter 2
IBM 16/4 Token-Ring PCI Adapter 2 with Wake on LAN
IBM 16/4 Token-Ring PCI Special
IBM Auto 16/4 Token-Ring Credit Card Adapter
IBM Auto 16/4 Token-Ring ISA Adapter (PnP Config)
IBM Auto Wake Token-Ring ISA Adapter (PnP Config)
IBM EtherJet PC Card
IBM Ethernet Credit Card Adapter II
IBM Gigabit Ethernet Server Adapter
IBM Gigabit Ethernet SX Server Adapter
IBM High Rate Wireless LAN Mini PCI Card
IBM High Rate Wireless LAN PC Card
IBM High-Speed 100/16/4 Token-Ring PCI Adapter
IBM Internal High Rate Wireless LAN PC Card
IBM Netfinity 10/100 Ethernet Adapter
IBM Netfinity 10/100 Ethernet Security Adapter
IBM Netfinity 10/100 Ethernet Security Adapter
IBM Netfinity 10/100 Ethernet Security Adapter 2
IBM Netfinity Gigabit Ethernet SX Adapter
IBM PCI Token-Ring Adapter
IBM PCI Wake On LAN Token-Ring Adapter
IBM Turbo 16/4 Token-Ring ISA Adapter (PnP Config)
IBM Turbo 16/4 Token-Ring PC Card
IBM Turbo 16/4 Token-Ring PC Card 2
IBM-Based Ethernet Credit Card Adapter
Intel 21040-Based PCI Ethernet Adapter (Generic)
Intel 21041-Based PCI Ethernet Adapter (Generic)
Intel 21140-Based PCI Fast Ethernet Adapter (Generic)
Intel 21143-Based PCI Fast Ethernet Adapter (Generic)

Intel 82542-based Gigabit Adapter
Intel 82543GC-based F Gigabit Adapter
Intel 82543GC-based T Gigabit Adapter
Intel 82557-based Integrated Ethernet PCI (10/100)
Intel 82558-based Integrated Ethernet
Intel 82558-based Integrated Ethernet with Wake on LAN
Intel 8255x-based Fast Ethernet
Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
Intel EtherExpress 10 ISAPNP Ethernet Adapter
Intel EtherExpress PRO/100 Mobile PC Card 16 Adapter
Intel EtherExpress(TM) PRO/100 LAN/Modem PC Card Adapter
Intel EtherExpress(TM) PRO/100 ISA Adapter
Intel EtherExpressPro 10 ISAPNP Ethernet Adapter
Intel TokenExpressPro ISAPNP Token Ring Adapter (Generic)
Intel(R) 82559 Fast Ethernet LAN on Motherboard
Intel(R) 82559 Fast Ethernet LOM with Alert on LAN 2*
Intel(R) 82559 Fast Ethernet LOM with Alert on LAN*
Intel(R) 82559 Fast Ethernet LOM with Basic Alert on LAN*
Intel(R) InBusiness(TM) 10/100 Network Adapter
Intel(R) PRO/10+ PCI Adapter
Intel(R) PRO/100 CardBus II
Intel(R) PRO/100 Desktop Adapter
Intel(R) PRO/100 Dual Port Server Adapter
Intel(R) PRO/100 LAN+Modem56 CardBus II
Intel(R) PRO/100 Network Connection
Intel(R) PRO/100 Network Connection
Intel(R) PRO/100 Network Connection
Intel(R) PRO/100 P Mobile Adapter
Intel(R) PRO/100 P Mobile Adapter
Intel(R) PRO/100 P Mobile Combo Adapter
Intel(R) PRO/100 P Mobile Combo Adapter
Intel(R) PRO/100 S Advanced Management Adapter
Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter
Intel(R) PRO/100 S Desktop Adapter
Intel(R) PRO/100 S Dual Port Server Adapter
Intel(R) PRO/100 S Management Adapter
Intel(R) PRO/100 S Mobile Adapter
Intel(R) PRO/100 S Mobile Combo Adapter
Intel(R) PRO/100 S Mobile LAN on Motherboard
Intel(R) PRO/100 S Network Connection
Intel(R) PRO/100 S Server Adapter
Intel(R) PRO/100 S Server Adapter
Intel(R) PRO/100 S Server Adapter
Intel(R) PRO/100 Server Adapter
Intel(R) PRO/100 SP Mobile Adapter

Intel(R) PRO/100 SP Mobile Combo Adapter
Intel(R) PRO/100 SR Mobile Adapter
Intel(R) PRO/100 SR Mobile Combo Adapter
Intel(R) PRO/100 VE Adapter
Intel(R) PRO/100 VE Desktop Adapter
Intel(R) PRO/100 VE LOM
Intel(R) PRO/100 VE Network Connection
Intel(R) PRO/100 VE Network Connection
Intel(R) PRO/100 VM Desktop Adapter
Intel(R) PRO/100 VM Network Connection
Intel(R) PRO/100 WiM PCI Adapter
Intel(R) PRO/100+ Alert On LAN 2* Adapter
Intel(R) PRO/100+ Dual Port Server Adapter
Intel(R) PRO/100+ Management Adapter
Intel(R) PRO/100+ Management Adapter with Alert On LAN*
Intel(R) PRO/100+ Management Adapter with Alert On LAN* G Server
Intel(R) PRO/100+ Management Adapter with Alert On LAN* GC
Intel(R) PRO/100+ MiniPCI
Intel(R) PRO/100+ PCI Adapter
Intel(R) PRO/100+ Server Adapter
Intel(R) PRO/100+ Server Adapter (PILA8470B)
Intel(R) PRO/1000 F Server Adapter
Intel(R) PRO/1000 Gigabit Server Adapter
Intel(R) PRO/1000 T Server Adapter
Intel(R) PRO/100B PCI Adapter (T4)
Intel(R) PRO/100B PCI Adapter (TX)
Intel(R) PRO/Wireless 2011 LAN PC Card
Intel(R) PRO/Wireless 2011 LAN PCI Card
Intel(R) PRO/100 VE Desktop Connection
Interphase 5525/5575 PCI ATM Adapter
I-O DATA ET100-PCI-R Fast Ethernet Adapter
I-O DATA ET100-PCI-S Fast Ethernet Adapter
I-O DATA PCET/TX-R Fast Ethernet Adapter
Jaton USB Ethernet Device Adapter
Kingston EtherRx KNE111TX PCI Fast Ethernet Adapter
Kingston Etherx IC PCCard Ethernet Adapter (KNE-PC2)
Kingston Etherx KNE100TX PCI Fast Ethernet Adapter (21143-PD)
Kingston Etherx PC Card Ethernet Adapter (KNE-PCM/M)
Kingston Etherx PC Card Ethernet Adapter (KNE-PCM/T)
Kingston Technology USB Ethernet Adapter
KLSI USB Ethernet Adapter
KLSI USB Ethernet Adapter
KLSI USB Ethernet Adapter
KTI KF-230TX/2 10/100 Base-TX Fast Ethernet Adapter
KTI KF-230TX/3 10/100 Base-TX Fast Ethernet Adapter

LAN83C175 EPIC/C Ethernet CardBus Integrated Controller
Legend Easy 56k Modem+10-100 Ethernet+GSM Adapter
Linksys Combo PCMCIA EthernetCard
Linksys EtherFast 10&100 + 56K PC Card (PCMLM56) (LAN)
Linksys EtherFast 10/100 CardBus PC Card
Linksys EtherFast 10/100 PC Card (PCMP100)
Linksys EtherFast Integrated 10/100 CardBus PC Card (PCM200)
Linksys HomeLink Phoneline 10M USB Network Adapter
Linksys LNE100Tx Version 2.0 Fast Ethernet PCI Card
Lite-On Communications Compatible PCI Fast Ethernet Adapter
Lite-On Communications LC82C115-Based 10/100 Ethernet Adapter
LNE100TX Fast Ethernet Adapter Version 1.0
Macronix MX98715-Based Ethernet Adapter (Generic)
Madge 16/4 CardBus Adapter
Madge 16/4 CardBus Adapter Mk2
Madge Presto PCI
Madge Presto PCI 2000
Madge Presto PCI Plus
Madge Smart 100/16/4 PCI Ringnode
Madge Smart 100/16/4 PCI-HS Ringnode
Madge Smart 16/4 PCI Ringnode Mk2
Madge Smart 16/4 PCI Ringnode Mk3
Madge Smart 16/4 PCMCIA Ringnode
Madge Smart 16/4 PCMCIA Ringnode Mk2
Megahertz CC10BT Ethernet Adapter
Megahertz CCXJ10BT Ethernet Adapter
Megahertz CCXJEM1144 Multi-function (Network Interface)
Megahertz CCXJEM2288 Multi-function (Network Interface)
Megahertz CCXJEM3336 Multi-function (Network Interface)
MELCO LC13-TX1 Fast Ethernet Adapter
MELCO LGY-PCI32-GT Gigabit Ethernet Adapter
Microdyne EtherMAX 10/100 ISA Adapter
Microdyne NE10/100 ISA Adapter
Microsoft Ethernet PVC
Microsoft Ethernet PVC - RFC2684
Microsoft Loopback Adapter
Mobility USB-Ethernet Adapter
National Semiconductor DP83815-Based PCI Fast Ethernet Adapter
NatSemi-Based NE4100 Infomover Ethernet Adapter
NCR-WaveLAN Wireless LAN PC Card
NE2000 Compatible ISAPNP Ethernet Adapter (Generic)
NE2000 Compatible PCMCIA Ethernet Adapter (Generic)
NEC 82559-based Fast Ethernet Adapter
NEC PC-9821X-B06(PCI) or compatible/Intel 82557-based Ethernet
NEC PK-UG-X006(PCI) or compatible Fast Ethernet Adapter

Netelligent 10 T/2 PCI UTP Coax Controller
Netelligent 10/100TX PCI Embedded UTP Coax Controller
Netelligent 10/100TX PCI Embedded UTP Coax Controller
Netelligent 10/100TX PCI Embedded UTP Controller
Netelligent 10/100TX PCI Embedded UTP/AUI Controller
Netelligent 10/100TX PCI UTP Controller
Netelligent 10T PCI UTP Controller
Netelligent Dual 10/100TX PCI UTP Controller
NetFlex-3/P Controller (TLAN 1.0)
NetFlex-3/P Controller (TLAN 2.3)
NETGEAR EA101 USB Ethernet Adapter
NETGEAR EA101 USB Ethernet Adapter
NETGEAR FA310TX Fast Ethernet Adapter (NGRPCI)
NETGEAR FA311 Fast Ethernet Adapter
NETGEAR FA312 Fast Ethernet Adapter
NETGEAR FA330 Fast Ethernet Adapter
NETGEAR FA410TX Fast Ethernet PC Card
NETGEAR FA510 Fast Ethernet CardBus Card
NETGEAR PA101 USB Phoneline10X Adapter
Xircom CreditCard Ethernet 10/100 + Modem 56のネットワーク機能
Nortel BayStack Wireless PCMCIA Adapter
Nortel Networks e-mobility 802.11b Wireless LAN PC Card
Nortel Networks e-mobility 802.11b Wireless LAN PCI Card
Olicom GoCard 3250 Token-Ring 16/4 CardBus PC Card
Olicom GoCard Token-Ring PC Card (OC-3221)
Olicom RapidFire 3139 Token-Ring 16/4 PCI Adapter
Olicom RapidFire 3140 Token-Ring 16/4 PCI Adapter
Olicom RapidFire 3141 Token-Ring 16/4 PCI Fiber Adapter
Olicom RapidFire 3540 HSTR 100/16/4 PCI Adapter
Olicom Token-Ring PCI/II 16/4 Adapter (OC-3137)
ORiNOCO Wireless LAN PC Card (3.3 and 5 volt)
ORiNOCO Wireless LAN PC Card (3.3 volt)
ORiNOCO Wireless LAN PC Card (5 volt)
Ositech 4oD 10Mbps Ethernet Adapter
Ositech 7oD 10/100Mbps Ethernet Adapter
Ositech 7oS CardBus 10/100 Ethernet Adapter
Ositech JoD 10Mbps Ethernet Adapter
Ositech JoH 10Mbps Ethernet Adapter
Ositech JoS CardBus 10/100 Ethernet Adapter
OvisLink LFE-8139ATX Fast Ethernet Adapter
Ovislink PCI Ethernet Adapter
Planex FNW-9700-T Fast Ethernet Adapter
Planex FNW-9702-T Fast Ethernet Adapter
PortGear Ethernet Adapter
PortGear Ethernet Adapter

PortGear Ethernet Adapter
Portsmith Express Ethernet Adapter
PortStation Ethernet Module
RadioLAN 10BaseRadio PC Card
RadioLAN/10 PC Card RadioNET Interface
Raytheon RayLink WireLess PCMCIA LAN Adapter
Realtek RTL8029(AS) PCI Ethernet Adapter
Realtek RTL8029(AS)-based Ethernet Adapter (Generic)
Realtek RTL8139 Family PCI Fast Ethernet NIC
Realtek RTL8139 Family PCI Fast Ethernet NIC
RoamAbout 802.11 DS (Cabletron)
RoamAbout 802.11 DS (Enterasys)
RocketModem II 4 Port, PCI-BUS
RocketModem II 6 Port, PCI-BUS
RocketPort-PCI 16 Port, PCI-BUS
RocketPort-PCI 2 Port, PCI-BUS
RocketPort-PCI 32 Port, PCI-BUS
RocketPort-PCI 4 Port, PCI-BUS
RocketPort-PCI 8 Port, PCI-BUS
Rubytech PCI Ethernet Adapter
RubyTech/Danpex FE-1439TX PCI 10/100 Ethernet Adapter
Samsung HomePNA 1M CNR
Samsung SEM-2000 MiniPCI LAN Adapter
Samsung SEM-2100iL MiniPCI LAN Adapter
Sierra Wireless AirCard 300 CDPD Driver
Silicom FastEthernet CardBus Adapter
Silicom USB Ethernet Adapter
Silicom USB Ethernet Adapter
Silicom USB Home Phoneline Network Adapter
Silicom USB HomeRun Adapter
Silicom USB LongRun Adapter
SiS 900 PCI Fast Ethernet Adapter
SiS 900-Based PCI Fast Ethernet Adapter
SiS Integrated 10/100 Ethernet Controller
SMC EtherEZ 8020BT/T PCMCIA Ethernet Adapter
SMC EtherPower II 10/100 Ethernet Adapter
SMC EZ Card 10/100 PCI (SMC121ITX)
SMC EZ Card PCI 10 Adapter (SMC1208)
SMC ISAPNP Ethernet Adapter (Generic 8416)
SMSC LANEPIC CardBus Ethernet 10/100 (NDIS 5)
SMSC LANEPIC PCI Ethernet 10/100 (NDIS 5)
Socket EA Credit Card Ethernet Adapter
Socket EA Low Power Credit Card Ethernet Adapter
SOHOware 10/100 PCI Network Adapter
Sony PCWA-C100 Wireless PC Card

Sundance ST201 based Adapter NT Driver
Sundance ST201 based PCI Fast Ethernet Adapter
SURECOM EP-320X-R 100/10/M PCI Adapter
Symbol LA-41x1 Spectrum24 Wireless LAN PC Card
Symbol LA-41x3 Spectrum24 Wireless LAN PCI Card
Symbol Spectrum24 WLAN PC Card
SysKonnnect FDDI PCI Adapter (Generic)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5521 (SK-NET FDDI-UP)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5522 (SK-NET FDDI-UP DAS)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5541 (SK-NET FDDI-FP)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5543 (SK-NET FDDI-LP)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5544 (SK-NET FDDI-LP DAS)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5821 (SK-NET FDDI-UP64)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5822 (SK-NET FDDI-UP64 DAS)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5841 (SK-NET FDDI-FP64)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5843 (SK-NET FDDI-LP64)
SysKonnnect FDDI PCI Adapter SK-5844 (SK-NET FDDI-LP64 DAS)
SysKonnnect SK-9841 Gigabit Ethernet Server Adapter (SK-NET GE-LX)
SysKonnnect SK-9842 Gigabit Ethernet Server Adapter (SK-NET GE-LX dual link)
SysKonnnect SK-9843 Gigabit Ethernet Server Adapter (SK-NET GE-SX)
SysKonnnect SK-9844 Gigabit Ethernet Server Adapter (SK-NET GE-SX dual link)
SysKonnnect SK-984x-Based Gigabit Ethernet Adapter (Generic)
TDK LAK-CB100BX for CardBus
TDK LAK-CB100BX for CardBus Driver
TDK LAK-CD031 for PCMCIA
TDK Netflyer Cardbus Fast Ethernet Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN-S/T (A) with POT Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN-S/T Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN-S/T Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN-U (K) Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN-U (K) with POT Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN-U Adapter
Tiger Jet PCI 128K ISDN-U with POT Adapter
Toshiba ATM Meteor 155 PCI Adapter
Toshiba Fast Ethernet Cardbus LAN Card
Toshiba Fast Ethernet PCI LAN Card (21142-PA)
Toshiba IPC5008A 10/100 Ethernet PC Card
Toshiba Modem+Ethernet PC Card
Toshiba Wireless LAN Card
Toshiba Wireless LAN Mini PCI Card
USB HPNA 10 Mbps Network Adapter Driver
VIA Compatible Fast Ethernet Adapter
VIA PCI 10/100Mb Fast Ethernet Adapter
VIA PCI 10/100Mb Fast Ethernet Adapter

VIA PCI 10/100Mb Fast Ethernet Adapter
VIA VT86C100A Fast Ethernet Adapter
VIA VT86C100A-Based Fast Ethernet Adapter
WebDav Client Redirector
Winbond PCI Fast Ethernet Adapter (Generic W89C840)
Winbond W89C840 PCI Fast Ethernet Adapter
Winbond W89C926 Based PCMCIA Ethernet Adapter
Winbond W89C940-Based Ethernet Adapter (Generic)
Xircom CardBus Ethernet 10/100 Adapter
Xircom CEII Performance Series PCMCIA Ethernet Adapter
Xircom CreditCard Ethernet+Modem 28.8 (Ethernet)
Xircom CreditCard Ethernet+Modem 33.6 (Ethernet)
Xircom CreditCard ISDN Adapter
Xircom Ethernet + Modem 56
Xircom Ethernet Adapter 10/100
Xircom RealPort2 Ethernet 10/100 Adapter

付録 B

テクニカルサポート

- [テクニカルサポートへ連絡する前に](#)
- [テクニカルサポートフォーム](#)
- [テクニカルサポートを受けるための条件](#)
- [テクニカルサポートの連絡先](#)
- [旧バージョンのサポート期間について](#)
- [補足](#)

テクニカルサポートへ連絡する前に

(株) ネットジャパンのテクニカルサポートへご連絡いただく前に、本書で解説している問題への対処方法を参照し、お試しください。また、本書の発行後に追加・変更された情報が README として入っています。また、(株) ネットジャパンの Web サイト (www.netjapan.co.jp) や PowerQuest 社 Web サイト (www.powerquest.com) にも情報が掲載されていますので、お問い合わせいただく前にご参照ください。

テクニカルサポートフォーム

本書の解説に適切な解決法が見つからなかった場合は、パッケージに同梱されている「テクニカルサポートフォーム」に必要事項をご記入の上ファックスしていただくか、「テクニカルサポートフォーム」に準拠した内容を E メールにてお送りください。

注意： V2i Protector の CD-ROM の UTILITY フォルダには、パーティション診断ソフト PARTINNT が入っています。エラーの内容によっては PARTINNT を実行し、解析した情報が必要な場合もあります。

テクニカルサポートを受けるための条件

本書の解説では問題解決に至らなかった場合は、以下の方法でテクニカルサポートへご連絡ください。ここでサポートを受けられるのは、V2i Protector の登録ユーザーに限られています。

テクニカルサポートの連絡先

注意： テクニカルサポートへお問い合わせなさる際には：

- ・ テクニカルサポートフォーム (シリアル番号を必ず明記してください。)
- ・ 症状 (同梱のテクニカルサポートフォーム、もしくはそれに準拠したもので、なるべく手順がはっきりわかるようにお願いします。)

上記の資料をお送りください (電話でお問い合わせなさる際も、お手元にこれらをご用意ください)。これらの情報がそろっていない場合には、ご回答できない場合もございます。

ファックス：

Desktop 版ユーザー様：03-3864-5230

Enterprise Desktop 版ユーザー様：03-3864-5244

前述の内容と、発生した問題の概略をお送りください。

Eメール：

Desktop 版ユーザー様：support@netjapan.co.jp

Enterprise Desktop 版ユーザー様：enterprise-support@netjapan.co.jp

(株) ネットジャパンの Web サイト(www.netjapan.co.jp)や PowerQuest 社 Web サイト(www.powerquest.com)にも情報が掲載されていますので、お問い合わせいただく前
にご参照ください。

注意：返信先のメールアドレスに間違いがないか、必ず確認してください。

郵便

郵送先：〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-18-3 NBS 岩本町ビル
(株) ネットジャパン
テクニカルサポート

電話：03-3864-5215

このサービスは、休日・祝日を除く月曜から金曜日の10:00から12:00、13:00から
17:00の間に実施していますが、混雑が予想されますので、緊急の場合以外は極力お
避けください。

旧バージョンのサポート期間について

旧バージョンのサポートは、新バージョンがリリースされてから120日間、また、製品の
販売中止または他製品への統合から180日間を限度とします。

補足

- JIS キーボード(通常日本で販売されているものはすべてこれです)を使用している場
合、[PowerQuest Recovery Environment \(PQRE\)](#) を起動させた時に、“:”や“¥”
を入力する方法は次の通りです。
“:”の入力方法:「Shift キー」を押しながら“;+れ”が表示されたキーを押します。
“¥”の入力方法:“}]む”が表示されたキーを押します。
- 本書は開発中の画面をもとに作成しています。お手元の製品の画面表示と異なる場合
がある旨、ご了承ください。

用語集

Active Directory

ネットワーク上のオブジェクトに関する情報を保存し、それらの情報をユーザーやネットワーク管理者が使用できるようにするディレクトリサービスです。Active Directory は、ネットワークユーザーが許可されたリソースにアクセスすることを可能にします。その際、リソースがネットワーク上のどの場所にあっても、1つのログオンプロセスを使用することができます。ネットワーク管理者には、ネットワークを階層的に分かりやすく表示し、すべてのネットワークオブジェクトに対して1つの管理ポイントを提供します。

.iV2i

増分バックアップイメージファイルは、拡張子 .iV2i で保存されます。 .iV2i ファイルには、最後に作成されたベースラインバックアップイメージファイルと、それ以降に作成された増分バックアップイメージファイルからの増分のデータ（オペレーティングシステム、アプリケーション、データ、および設定）が含まれて入ります。増分バックアップイメージファイルは前回からの変更点のみを記録するので、最新の情報を効率よく保存できます。

PowerQuest Recovery Environment (PQRE)

グラフィカルな第2の Recovery Environment（オペレーティングシステム）で、ネットワーク上のバックアップイメージファイルにアクセスして復元するのに必要な最低限の機能を備えています。通常は、Windows上でドライブを復元することができない場合や、コンピュータに致命的な障害が発生し、ハードディスク全体を復元しなければならない場合に使用します。PQREの詳細については、オンラインヘルプの「PowerQuest Recovery Environmentの使用法」を参照してください。

.sv2i

インデックスファイルは、バックアップイメージが存在するのと同じフォルダに、バックアップイメージの一部として保存されます。このファイルには、ドライブとその場所に関する情報が保存されます。復元の際、.sv2i ファイルを指定すると、該当する情報が既にインデックスファイルに含まれているため、バックアップイメージファイルを復元する場所を指定する必要はありません。

UNC (Universal Naming Convention)

ネットワークコンピュータ上のフォルダ、ファイル、プログラムの識別に使用する方法のことです。パスは2つのバックスラッシュ（日本語環境では円記号 ¥）で始まり、サーバー名、共有名、ディレクトリ、ファイル名と続きます。

例：¥¥サーバー名¥共有名 ¥backup_name.v2i

.V2i

バックアップイメージは、拡張子 .v2i で保存されます。 .v2i ファイルには、バックアップ実行時の状態にドライブを復元するために必要なすべてのデータ（オペレーティングシステム、アプリケーション、データ、および設定）が含まれています。

イメージ

「バックアップイメージ」を参照してください。

拡張パーティション

パーティションを4つしか作成できない制限を解決する方法として開発された特殊なパーティションです。拡張パーティション内に、複数の論理パーティションを作成することができます。拡張パーティション自体にはデータは保存されず、ドライブ文字も割り当てられません。拡張パーティション内に作成した論理パーティションにはアプリケーションやデータを保存することができ、ドライブレターが割り当てられます。

基本パーティション

マスターブートレコード(MBR)パーティションテーブルで参照されるパーティションです。1つのハードディスク上に作成できる基本パーティションの数は最大4です。基本パーティションの1つを拡張パーティションにすることができます。1つのドライブ上で一度にアクティブにできるのは1つの基本パーティションだけです。アクティブでない基本パーティションには、通常はアクセスできません。多くの場合、データやプログラムは、拡張パーティション内の論理パーティションに保存されます。このようにすると、どの基本パーティションからでもデータにアクセスすることができます。

クラスタ

FAT、FAT32、およびNTFSファイルシステムでの最小の割り当て単位です。1つのクラスタは定められた数のディスクセクタで構成されています。

サービス

特定のシステム機能を実行し、他のプログラムを下層(ハードウェアに近い)レベルでサポートするプログラム、ルーチン、またはプロセスです。V2i Protector Agent はサービスの一例です。

遅延適用

V2i Protector で Restore Drive ウィザードを使用してオペレーティングシステムパーティションを復元することです(PQREでRecoveryWizardを使用することに対して)。

ドライブの保護

Agentによってドライブを24時間保護することです。ドライブを保護するには、一貫したバックアップイメージの作成スケジュールやバックアップイメージの保存先、必要なバックアップストレージオプションを指定する必要があります。

ドライブロック

ハードディスクのファイルシステムに変更を加える前に、選択したドライブが、他のソフトウェアによって書き換えられないようにするため処理です。ドライブをロックすることにより、V2i Protector がファイルシステムを変更しているときに、他のプログラムによってファイルシステムが変更されるのを防止します。これにより、復元時のドライブ上のデータの整合性が保証されます。

バックアップイメージ

データやオペレーティングシステムが保存されているドライブの正確なコピーで、通常は圧縮されてファイルとして保存されます。バックアップイメージファイルの拡張子は .V2i (Virtual Volume Image) です。バックアップイメージは、ファイルやフォルダ、またはドライブ全体の復元に使用します。バックアップイメージを、「イメージ」または「バックアップ」と呼ぶこともあります。Backup Image Browser を使用して、バックアップイメージファイルの内容を表示することができます。

ホットバックアップ

コンピュータ上のシステムの動作に干渉されずに、リアルタイムでバックアップを作成することです。V2i Protector を使用してホットバックアップを作成することができます。

ホットリストア

コンピュータをシャットダウンせずにバックアップイメージを復元することを指します。V2i Protector または Drive Image を使用して、データやアプリケーションのホット復元を行うことができます。オペレーティングシステムをホットリストアすることはできません。

ボリュームのマウント

物理的にネットワーク上の別の場所に存在するバックアップイメージ内のボリュームを使用するための操作です。ボリュームにはドライブ文字が割り当てられ、ローカルコンピュータシステムのドライブと同じように使用することができます。マウントしたボリュームは読み取り専用ですが、ボリューム内のファイルやフォルダを開いたり、ウイルスのスキャンや、マウントしたボリューム内のプログラムの実行などを行うことができます。

リモートコンピュータ

ローカルコンピュータからアクセスすることのできる、ネットワーク上に存在するコンピュータです。

論理パーティション

a) オペレーティングシステムによってファイルを読み書きすることのできる、拡張パーティション内の領域。通常は、オペレーティングシステムによって、ドライブレター (D: や E: など) が割り当てられます。b) ファイルシステムを保存し、ドライブ文字が割り当てられているパーティション、CD、その他のストレージデバイス。

索引

記号

.iv2i ファイル 101
.NET Framework 66
.sv2i ファイル 101
.v2i ファイル 101

A

Active Directory、定義 101
Agent
 Microsoft サービス 71
 [サービス]でのプロパティの設定 75
 サービスのトラブルシューティング 71
 ステータスの確認 67
Agentのステータスの確認 67

B

Backup Image Browser
 V2i ドライブのマウント解除 37
 V2i ボリュームのマウント 36
 エラーメッセージ 69
 概要 10
 バックアップ内のファイルの表示 42
 バックアップ内のファイルの編集 35
 バックアップのボリュームプロパティの表示 41
 開く 11
Backup Image Browser でバックアップを閉じる 12
Backup Image Browser でバックアップを開く 12
Backup Image Browser の起動 11
Backup Image Browser を開く 11
BIOS、CD または DVD ドライブを起動可能に変更 67

C

CD で起動 67
CD、起動 67

D

DHCP
 遅延適用の使用 58
 復元中のサーバーのダウン 56

DNS、遅延適用の使用 58
Drive Image のインストール
 トラブルシューティング 66
DVD サポート 2
DVD ドライブ、起動 67

F

FireWire サポート 2

I

ImageBrowser
 Backup Image Browser を参照
INCONFIG.EXE 54
IP アドレス、構成 56

J

JIS キーボード 99

M

Microsoft .NET Framework、インストール 66

P

PARTINNT.EXE 54
PING.EXE 54
PowerQuest Recovery Environment
 PQRE を参照
PQBOOT32.EXE 54
PQRE
 NIC、サポートされている 84
 PowerQuest CD から起動 67
 ストレージデバイス、サポートされている 83
 テスト 6
 動作概要 56
 トラブルシューティング 67
 ネットワークドライブのマッピング 56
 ネットワークを参照または表示できない 48
 バックアップの復元 48
 ユーティリティ 54
PQRE から参照できない 48
PQRE でサポートされている NIC 84

PQREでサポートされているストレージ
デバイス [83](#)
PQREでのネットワークドライブの
マッピング [56](#)
PTEDIT32.EXE [54](#)

R

RAMドライブ [4](#)
Recovery ウィザード [48](#)
Restore Volume ウィザード [45](#)

S

SMEDUMP.EXE [54](#)
sV2i ファイル [48](#), [53](#)
System Restore ウィザード [48](#), [51](#), [53](#)

U

USB サポート [2](#)

V

V2i Protectorのインストール [5](#)
V2i Protectorを使用する利点 [1](#)
V2i ドライブ
マウント解除 [37](#)
V2i ドライブのマウント解除 [37](#)
V2i ボリューム
マウント [36](#)
V2i ボリュームのマウント [36](#)

W

Windows エクスプローラ、V2i ドライブの
マウント解除 [37](#)
Windows エクスプローラ、V2i ボリュームの
マウント [36](#)

あ

アップグレード
トライアルバージョン [6](#)

い

イメージファイルの検証 [29](#)
イメージを作成するコンピュータ [16](#)
イメージ、作成 [16](#)

う

ウィザード
Recovery (PQREを使用) [48](#)
Restore Volume (コンソールから) [45](#)

え

エラーメッセージ [69](#)

き

基本表示 [10](#)

く

クイックリファレンス [13](#)

さ

サービス
Agentのプロパティの設定 [75](#)
リモートコンピュータで開始 [72](#)
ローカルコンピュータで開始 [72](#)
サービス、Agentで使用 [71](#)
サービス、定義 [102](#)
サポートされているSCSIドライブ [83](#)
サポートされるファイルシステムとリムーバブル
メディア [4](#)
さまざまなストレージオプションの
長所と短所 [20](#)
さまざまなストレージオプションの利点 [20](#)

し

システム要件 [4](#)
詳細表示 [10](#)
使用可能な追加タスク [10](#)
ジョブ、バックアップ
削除 [26](#)
スケジューリング [21](#)
直ちに実行する [25](#)
編集 [26](#)
新品のハードウェアへの復元 [48](#)

す

スケジュール

削除 26

修正 26

ストレージオプション、さまざまな

長所と短所 20

せ

静的IPアドレス、使用 56

そ

増分バックアップ 2

た

ダイナミックボリューム 71

ち

遅延適用、DHCPが存在しない場合 58

て

ディスクメディア、サポートされる 4

テクニカルサポート 97

PQREで実行するユーティリティ 54

テスト、PQRE 6

デバイス、サポートされる 4

電子メール通知、設定 27

と

トライアルバージョンの有効期間 6

トライアルバージョン、インストールまたは
アップグレード 6

ドライブ

RAM、非サポート 4

コピー 59

マウント解除 37

ドライブのコピー 59, 60

ドライブ文字、バックアップイメージファイル
への割り当て 36

トラブルシューティング 65

.NET Frameworkが必要 66

Agent 71

Agent、ステータスの確認 67

Backup Image Browser 69

PQRE 67

PQREに必要なストレージデバイス

ドライバ 68

V2i Protector プログラムの有効期間の

終了 7

インストール 66

エラーメッセージ 69

どの種類の復元を実行すれば

よいか 34, 44

ドライブ情報を取得できない 69

バックアップが保存されているネットワー

クドライブにアクセスできない 68

ね

ネットワーク

PQREからアクセス 68

PQREでサポートされているNIC 84

バックアップイメージの保存先を

参照できない 48

復元中の接続 56

ネットワークサポート 2

ネットワークにバックアップイメージを

保存する 2

は

ハードディスクドライブのアップグレード 59

準備 60

パスワードのリセット 66

パスワード、リセット 66

パス、バックアップのデフォルトの指定 27

バックアップ

Backup Image Browser で閉じる 12

Backup Image Browser で開く 12

完全性チェック 29

個別のファイルまたはフォルダの復元 38

実行する復元の種類の決定 34, 44

スケジューリング 21

内部のファイルの復元 35

ファイルやフォルダの復元、方法 34

復元方法 44

複数の復元 48

保存先の決定 20

バックアップイメージ

作成 15, 16

デフォルトの保存場所、指定 13

復元 45

他のユーザーによるコンピュータの

バックアップを許可 28

履歴 26

バックアップイメージ内のファイルの編集 35

バックアップイメージの作成 15, 16

デフォルトパスの指定 27

バックアップに最適な保存先の決定 20
ヒント 25

バックアップイメージのデフォルトの
保存場所 13

バックアップイメージファイルのドライブ文字
の作成 36

バックアップジョブ

- 削除 26
- スケジューリング 21
- 直ちに実行する 25
- 編集 26

バックアップスケジュール

- 削除 26
- 修正 26

バックアップスケジュールの削除 26

バックアップスケジュールの修正 26

バックアップスケジュールの変更 26

バックアップ内のファイルの表示 42

バックアップ内のファイルを使用して修復 35

バックアップの完全性、チェック 29

バックアップの作成についてのヒント 25

バックアップのスケジューリング 21

バックアップのデフォルトパス

- 最適な保存先の選択 20
- 設定 27

バックアップの品質、チェック 29

バックアップの復元 45

- PQREで 48
- PQREの説明 56

バックアップの復元方法 44

バックアッププロパティ 40

バックアップ履歴 26

ひ

ピアツーピアネットワークのサポート 2

必要なシステム要件 4

評価バージョン、インストーラまたは
アップグレード 6

表示

- バックアッププロパティ 40
- ボリュームプロパティ 41

表示、基本および詳細 10

ふ

ファイル

- 個別に復元 38
- バックアップ内から表示 42
- バックアップ内の編集 35
- 復元 33

ファイルシステム、サポートされる 4

ファイルやフォルダの復元 33, 35, 38

ファイルやフォルダの復元方法 34

フォルダ、復元 33, 38

複数のバックアップ、PQREを使用して復元 48

プロパティ

- バックアップ 40
- ボリューム 41

へ

ベーシックボリューム 71

ほ

ホットバックアップ 2

ボリューム

- ダイナミック 71
- 複数の復元 48
- ベーシック 71
- マウント 36

ボリュームプロパティ 41

め

メール通知、設定 27

メディア、サポートされる 4

ゆ

ユーザー、他のユーザーによるコンピュータの
バックアップを許可 28

ユーティリティ 54

よ

用語集 101

ら

ライセンス認証、V2i Protector 7

ライセンス、V2i Protector 7

り

リムーバブルメディア、サポートされる 4

履歴、バックアップ 26